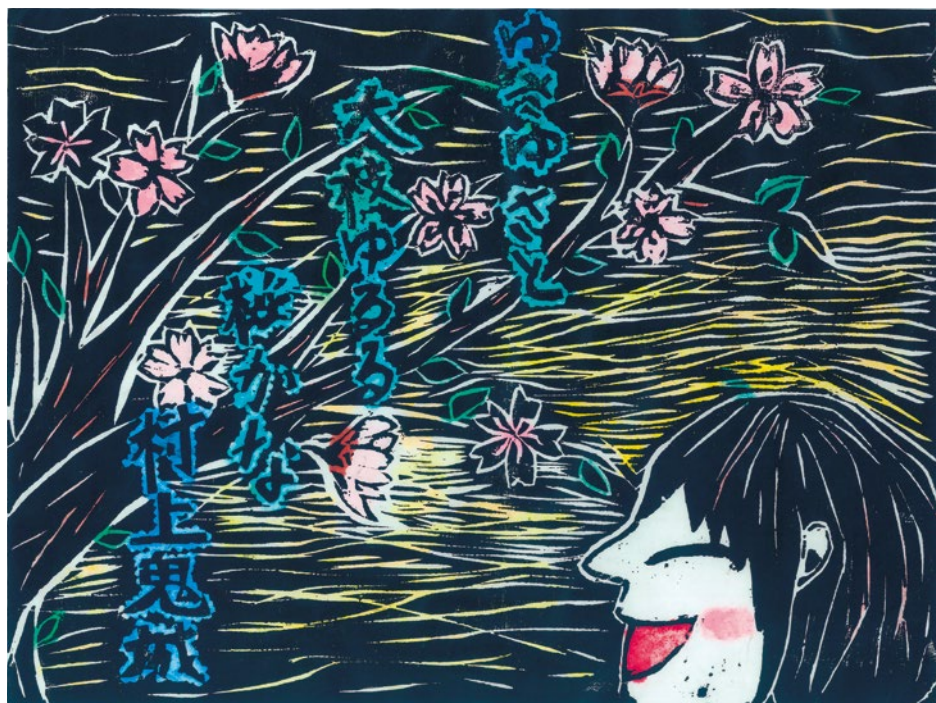


金光学園

やっなみ

2018.3



250号



卒業式





国際化教育の取り組み



饞の言葉

卒業式に参列し、旅立つ子供達に我が身を写し思い出す。就職も決まった大学4年の秋、北海道へ一人旅に出た。学生最後の旅はバイクで、有明から苫小牧行きフェリーに乗る。大雪山の根雪をも真っ赤に染めるナナカマド。知床岳には初冠雪。満天の星がオホーツクに降る。気ままな旅は順調に進む。ある夜、根室で客引きバイトに声掛けられた。民宿「友知」。今宵の客は私一人。同世代のバイト生達と楽しく夕食卓を囲み会話も弾む。食後、強面の主人が現れ地元元の焼酎を勧めた。彼は全国を何年も放浪した猛者だ。酒も話も進むが、次第に雲行き変じ、何かと主人が私に厳しい。何を言えども叱られる。何故にと尋ねると「お前は焼酎の頂きますが無かった。安酒と思うな。態度に出てるぞ」と。確かに私はまず焼酎の銘柄を聞いてしまった。言葉遣い、立振る舞い迄説教され、聞いて貰えぬ、認めて貰えぬ。こんな悲しさは初めてだ。酒の力で反論試みるが、けんもほろろ。戦は決し、バイト生の助け船で宴もお開きとなり、悔し涙が枕を濡らす。

主人は夜明けに農作業に出ると聞いた。なぜか別れの挨拶だけはせねばと思った。二日酔いと寒さを堪え、出待ちした。不自然ながらも一宿の礼を言った。軽トラの助手席から昨夜とは雲泥の笑顔と共に、右手が差し出された。私も強く握り返した。この怪訝な想いを、翌宿の釧路ユースのオーナーに話してみた。「きつと、その主人はあなたを好きで気になったんですよ。誰も嫌われる事を好んでは言いません。社会に旅立つあなたへの饞の言葉です」と。二人の年長者の話を併せ聞き、少し頷けた。思えば酒席とはいえ、我を知らず主人に抗った自分の稚拙が恥ずかしい。

饞の言葉とは元来、鼻向けと書き、旅立つ人へ馬の鼻の向く方向を指し、今後の進路を教示する言葉との事。今の自分と、若い人に嫌われてでも言うべき事が言えるだろうか。大人、人生の先輩として、どんな饞の言葉を送れるのか。青き日に頂いた、今でも心に残る饞の言葉である。私の子供達にも、こんな一人旅をさせてみたい。

(金光学園やつなみ保護者会副会長)

横藤田 晋

目次

巻頭言	1
第70回高校卒業式	2
会報	29
道(20)	30
やつなみ保護者会のページ	32
メタセコイア	35
活躍おめでとう	36
中2学年集会	42
中1学年集会	45
探究授業報告	47
学園随想(76)	48
AFS留学生紹介	50
ある日のホームルーム	52
金光学園の国際化教育の取り組み	54
生徒入賞作品	64
生徒会活動	68
学園だより	74
教室の窓から	76
編集後記	

第70回高校卒業式

式辞

校長 金光 道晴



長く厳しかった冬も過ぎ、A校舎の前
の梅も、今日の卒業式を祝うかのように、
数日前からほろび始めました。寒さは
残っていますが、早春のさわやかな日に
今日の卒業式を迎えさせていただきます。
はじめにご来賓の皆様へ御礼を申し上げ
ます。ご来賓の皆様方には、ご多用の
ところをお練り合わせて、本日の高等学

校の卒業式にご臨席を賜り誠にありがと
うございます。平素から学園教育に温か
いご理解とご協力、お祈り添えいただい
ておりますことに心から御礼を申し上げ
ます。
保護者の皆様には、本日は誠ににおめで
とうございます。お子様が新入生として
入学してこられた3年ないし6年前も、
過ぎ去ってみればついこの前のように思
われます。保護者の皆様には、こうして
お子様が、無事学園生活を終えて、今日
の卒業式に臨まれることを感無量の思い
でお迎えになられていること存じます。
改めまして入学以来、学園教育の全てに
わたりまして、今日までいただいでまい
りました、温かいご理解と格別のご協力
に御礼を申し上げますとともに、心から
お祝いを申し上げます。
さて、22名の卒業生の皆さん、本日は
卒業おめでとうございます。今朝は学園
生として最後の金光教本部広前への参拝

卒業式の概要

2月28日朝8時5分、卒業生22名は、
金光教本部広前に学園生徒として最後
の参拝をし、滝口道雄さんが代表で卒
業のお礼と新しい生活へ向けての決意
をお届けした。

第一部の式は、ほつま体育館にて10
時に開式。国歌斉唱の後、各クラス担
任より卒業生が紹介され、金光道晴校
長より総代の小出尚寛さんに卒業証書
が授与された。続いて、校長式辞の後、
佐藤乃武雄理事長より記念品として金
光教典抄「天地は語る」と前金光教
教主のお筆になる「学園の合言葉」の
色紙が代表の西川華さんに贈られた。
さらに、金光教教務総長 西川良典氏の
挨拶、来賓祝辞（岡山県議会議員 渡辺
知典氏）、送辞（加藤優一さん）、答辞（吉
原光さん）と続き、最後に「金光学園歌」
を斉唱して第一部は閉会した。

第二部の祝宴は、会場を小体育館に

をし、代表の滝口道雄君が、ここまで成
長させていただいたことの御礼と、ここ
からお願いのお届けをされ、教主金光
様から「本日はおめでとうございます。
ただいま代表の方がお願いされましたよ
うに、これからも学園生活で培われたも
のを大切に、皆さんそれぞれの進路に向
かって、世話になる全てに礼をいう心を
もって進んでいかれますよう願ってやみ
ません」とのお言葉をいただきました。
そして先ほどは卒業証書をいただかれ、
めでたく高等学校第七十回卒業生になら
れたのであります。誠ににおめでとうござ
いました。

皆さんは、私にとっては大変印象深い
学年であります。と申しますのも私は校
長に就任して二回だけ修学旅行の引率を
したことがあるのですが、二度とも皆さ
んの学年でありました。中3の時の沖繩
修学旅行と高2の時はオーストラリアコー
スと一緒にらせてもらいました。オー
ストラリアに行った時はラッドフォード
カレッジと姉妹校締結をする目的もあつ
たのですが、どちらも大変素晴らしい修学
旅行となり、私にとっても、楽しい思い出
となっております。

高3になってからは、週に1時間では
ありませんが、宗教の時間で色々な話を
させてもらい、皆さんのスピーチも楽し
みに聞かせてもらいました。そんな思い
出深い皆さんが今日学園を巣立っていく
れるということで、私自身も感無量の思



移して行われた。ほつま同窓会副会長
大西恒夫氏から同窓会入会の歓迎の言
葉の後、卒業生保護者代表 田中良枝氏
より記念品目録（高校棟高3普通教室
及び演習教室へのプロジェクト設置）
の贈呈が行われた。次に2代校長 佐藤
金造先生のお歌に、金光威和雄先生作
曲による「若き人よ」を斉唱し、お祝
いとして音楽部コーラスが「素顔のま
まで」を、音楽部吹奏楽団が「ジャパニ
ズグラフィティIV（弾厚作作品集）」を、
それぞれ卒業生の部員も交えて演奏し
た。そして、藤井隆司さんの先唱で食
前訓を唱え会食を始めた。歓談の後、
やつなみ保護者会会長 平松晃弘氏から
お祝いの言葉を頂いた。さらに学園生
活の3年間ないし6年間を振り返る「あ
しあと」が久保田光盛先生と天野浩美
先生の司会のもと、高3学年団を中心
に上演された。写真とナレーションで
入学式、キャンプ、修学旅行、ほつま祭
体育会などの楽しかった日々を思いを
馳せた。終わりに、保護者代表の加藤
妃登美氏、卒業生代表の宮崎有沙さん、
学校代表の佐藤正俊副校長よりそれぞ
れ謝辞が述べられ、拍手に送られて卒
業生は学園を巣立った。



いでここに立たせていただいています。

さて、本校は現在、国際化教育・グローバル教育を積極的に進めており、皆さんの中にも海外でのホームステイを経験した人や、外国の方の受け入れに関わり、良き交流を持った人も多いと思います。

その中で「EUがあなたの学校にやってくる」というプログラムでは、全国の多くの学校の中から、今年度も学園を選んでいただき、11月にドイツ大使自らが来校されました。

卒業生の皆さんは高3だったので、大使の話聞く機会がなかったと思いますが、高1・高2の皆さんで参加した人は、よく覚えていると思います。

その時、ドイツ大使が話された言葉でも印象深く残っているものがあります。それはEUの理念になっている次の三つの言葉であります。一つ目は「対立でなく協力」を、二つ目は「国境のない暮らし」を、三つ目は「問題はいつも共同して解決する」という三つの事を目指し、大切に行っていると話されたのであります。現在のドイツは国境を境に何と十もの国と隣接しています。日本のように周りを海で囲まれ、国境を持たない国では想

像がつかないことではありますが、皆さんも知っての通り、ドイツは第二次世界大戦では周りの全ての国々を敵として戦い、ユダヤ人の大虐殺なども行いました。

しかし、その過去の歴史の反省に立って、今EUの一員として掲げている理念が、先程申した「対立でなく協力を」「国境のない暮らしを」「問題はいつも共同して解決する」という三つの原則だそうであり

ます。

その話を聞かせていただきながら、校長室では学園のスクールモットーとして「人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに」の合言葉のお話をしたのであります。そして合言葉こそ世界の平和につながる大切な言葉であるとお話しましたら、大使は心から共感して下さり、EUの理念とも相通じるとおっしゃっていただいたのであります。

大使はその日は倉敷に宿泊されるというので、その後も岡山のこと、日本のこと、ドイツのこと、大使館のことなど、色々なお話ができ、お互いの理解を深め合うことができました。お別れする時には、「生徒さんや先生方が東京に来る機会があれば、是非ドイツ大使館を訪ねて下さい」

と言っていただけなほど和やかに交流ができ、後日丁寧なお礼状まで頂いたようなどでありました。

さきおととい大きな感動の中で閉幕した平昌冬季オリンピックでも、国を超えての友好や親善が深まり、お互いの理解が進んだように思えます。しかし、スポーツ以外の政治や経済、核問題や地域紛争など国際情勢に目を向けると、心配や不安が募ってきました。

この世界の現状から、平和な世の中を実現するためのキーワードこそ、やはり、合言葉の「人・自分・物」を大切にすることだと思えてなりません。

もちろん世界だけでなく、私達の身近な、家庭や学校、地域社会などにおいても、お互いの違いを認め合い、お互いを尊重することが、良き関係を築いていく最も大切な在り方ではないでしょうか。まさに学園の合言葉の精神そのものなのです。

皆さんはこの「合言葉」を入学以来何度も何度も聞いてきましたが、卒業してからも、ずっと大切に続けていって欲しいと思うのであります。きっと皆さんの生涯の宝物となると信じています。

皆さんは今日、この学び舎を巣立つて

行くわけでありますが、これからの生活は、これまでのようにいつも温かい支援や援助のあるものとは限りません。大きな試練や厚い壁にぶつかることもあると思えます。

もし自分だけで解決できないような困難なことに遭遇し、すぐに助けが得られないようなことがあれば、是非学園の校章と同じ、「やつなみ」の紋のある近くの金光教の教会を訪ねてみて下さい。きつと力になっていただけたらと思います。

また東京や関西をはじめ、全国いたる所で、皆さんの先輩である大勢の学園の卒業生が活躍しています。そんな先輩方も必ず力になってくれるはずですよ。家族や友達や先生など多くの人に祈られ、支えられていることも忘れないで下さい。

昨日私は、皆さん全員の卒業短歌を読ませてもらいました。その内の一部はほつま新聞にも掲載されていますが、家族や友人への感謝の気持ち、授業や部活動や修学旅行での思い出など、一人ひとりの短歌に卒業の思いが込められており、改めて皆さんが今日までの学園生活の中で、多くのことを学ばれ、成長してこられたことを強く感じさせていただきました。



勉学はもとより、健康な体、大切な友として何より、人として大切な心を身につけることができたと思っています。皆さんのご健勝とご多幸を心からお祈りし、終りにもう一度「人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに」の合言葉を申し上げて、式辞と致します。

送 辞

在校生代表 加藤 優一



卒業生の皆様、本日はご卒業誠にありがとうございます。早春の陽射しに、温かく包まれた今日のよき日を迎えられることを、在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

今この場に立ち、振り返ってみますと、先輩方と過ごした数々の思い出が目の前に浮かんできます。

先輩方は、日々の活動の中で、英語を使った発表や、ジャパン・ソサエティー・ジュニア・フェロー・リーダーシップなどの留学プログラムを通して金光学園のさらなる国際化に大きく貢献されました。

また、探究授業では、様々なゼミ活動に熱心に取り組まれ、『JSEC高校生科学技術チャレンジ』や『SSH生徒課題研究発表会』などで素晴らしい成果を残されました。また、クラス毎に企画する1日旅行に取り組んだり、新しくしつらえた自習室で積極的に勉強されたりする姿は深く印象に残っており、創意工夫や日々の努力の大切さに気づかされました。

行事にも本気で取り組みました。ほつま祭では、1年生の時に展示の部で一位から三位を独占され、2年生の時には展示の部で三位を、演技の部で一位と二位を獲得されました。工夫を凝らした展示や、独創的な演技は、見る人を惹きつける素晴らしいものでした。今年度の体育会は、時折雨が降る中、姉妹校であるオーストラリアのラッドフォードカレッジの皆さんも参加し、華やかに行われました。先輩方の笑顔と団結力、そして真剣に競技に向かう姿に、圧倒されるとともに励まされました。

また、部活動でも輝かしい結果を残されました。運動部では、少林寺拳法部・陸上競技部が全国大会への出場を果たし、バレーボール部・卓球部が中国大会へ出



場しました。少林寺拳法部で世界大会、バレーボールとアイスホッケーで国民体育大会に、スキー競技で全国大会に出場した先輩もいらっしゃいました。

文化部では、書道部が全国競書大会において推選を受賞し、囲碁将棋部が全国高等学校連盟将棋新人大会に出場しました。音楽部吹奏楽団は米国演奏訪問や定期演奏会、音楽部コーラスは全国高等学

校総合文化祭での演奏やサマーコンサートを行い、最高の笑顔とパフォーマンスで、会場全体に感動の嵐を巻き起こしました。私たちは先輩方の活躍される姿をしっかりと胸に刻み、先輩方を目標にしてこれからも頑張っていこうと思います。

さて、社会に目を向けてみると、この1年の間には、さまざまなことがありました。

怪我を乗り越えオリンピック連覇を果たしたフィギュアスケートの羽生結弦選手、史上最年少で棋戦優勝を遂げた将棋の藤井聡太六段、陸上男子百メートルにおいて日本史上初の九秒九八をマークした桐生祥秀選手など若い世代の活躍も目立ちました。高い目標を持ち、努力を続け、快挙を成し遂げた姿に感動を受け、元氣をもらいました。

昨年、「核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）」がノーベル平和賞を受賞しました。その授賞式に広島での被爆体験を証言してきた85歳のサロー節子さんが登壇しました。サローさんが被爆したのは13歳の時でした。壊れた建物の下で身動きがとれなくなっていたサローさんは暗闇の中で「あきらめるな！ がれ



きを押し続ける！ 光が入ってくるのがみえるだろうか？ そこに向かつてはって行きなさい」という声を聞き、建物からはい出し一命を取り留めました。そこでサローさんが目にしたものは、破壊された街と家族や友人も含めた大勢の犠牲者の姿でした。そして今、その体験を元に核兵器の廃絶と世界平和をICANの一員として訴えています。ICANには多くの若者たちも参加しています。そこには国や文化の違いや世代を越え、手を携えて人類の平和のために活動する姿を見ることが出来ます。私たちも未来のた

めに何ができるのか考え、光へ向かって、あきらめずに進んでいこうと思います。

今日、晴れて卒業式を迎えられた先輩方へ、日野原重明さんの言葉を贈らせていただきます。日野原さんは百歳を超えても現役の医師として活動され、その豊富な経験からたくさんの方の言葉を残されました。その一つに「生きがいとは自分が徹底的に大切にするとところから始まる」という言葉があります。学園の合言葉にも通ずる言葉だと思います。先輩方も自分を大切にされ、生きがいを見つけ、社会でご活躍下さい。

先輩方は、今日を境に新しい世界に向かって大きな一歩を踏み出されます。時には困難なことにもぶつかるともあるでしょう。そのような時にこそ、学園の合言葉や学園で生活をともにされた仲間達との思い出を励みに、自分らしく夢に向かって歩み続けてください。私達は先輩方が築かれた伝統を引き継ぎ、そしてそれを後輩達に受け渡していきたいと思

います。最後にになりましたが、先輩方の今後の更なるご活躍とご多幸を、在校生一同お祈りして、送辞とさせていただきます。

答 辞

卒業生代表 吉原 光



寒さも和らぎ、少しずつ春の訪れが感じられるようになりました。

本日は私たちのために、このような厳粛で盛大な卒業式を挙げていただき誠にありがとうございます。思い起こせば、3年ないし6年前に真新しい制服に身を包み、一人ひとりがそれぞれの目標を持つて金光学園の門をくぐったことがつい昨日のことのように感じられます。以来私たちは素晴らしい仲間たちと共に切磋琢磨しながら、勉強や部活動、学校行事に取り組み、今日この日を迎えることができました。私たちの門出にあたり、ご来

賓の皆様を始め、多くの方からお祝いや激励のお言葉をいただき卒業生一同、心より御礼申し上げます。

さて、この1年を振り返ると、将棋界史上最年少のプロ棋士 藤井聡太六段の活躍が大きな話題となりました。公式戦連勝記録を30年ぶりに塗り替え、中学生で初の六段に昇格するなど数々の活躍を見せてくれました。彼の強さの理由の一つとしてこんなエピソードがあります。彼が小学生の頃、憧れの棋士 谷川浩司さんとイベントで対戦した際、終了時間に近づいたため谷川さんが優勢の局面で引き分けを提案されました。すると藤井少年は号泣して将棋盤から離れなくなっていました。そのとき彼は谷川さんと最後の一手まで指したかったのではないかと言われています。「劣勢は確実。しかし、どんな勝負であっても最後まで戦い抜きたい。勝ちを諦めたくない」という彼の強い思いがあったと思います。この粘り強く最後まで諦めない強い気持ちがあるのが藤井六段の快進撃につながっているのではないのでしょうか。藤井六段は、「乗り越えられない試練はない。そこにあるのは挑戦か諦めのどちらかだ」と身をもつ



て教えてくれました。

私たちが社会人となって活躍する十年後、二十年後の社会はどのような社会になっているのでしょうか。予想される変化の一つは、グローバル化の一層の進展です。グローバル化が進めば、異文化に触れる機会が増え、国境を越えた資本や労働力の移動、知識・技術の交流が増す反面、国内産業の衰退や様々な格差が拡大する

ことが予想されます。私は昨年12月に岡山市で行われた「SDGsの達成に向けたRCE第一回世界会議」にボランティアスタッフとして参加しました。SDGsとは2015年に国連サミットで採択された貧困や飢餓、エネルギー、気候変動、平和的社会など、すべての国で持続可能な社会を実現するための開発目標のことです。今世界はこのSDGsの達成に向けて大きく動いています。しかし、残念なことに日本人は当事者意識が低く、誰かが問題を解決してくれると思っている人が多いという事実があります。世界には多くの文化や思想があることを知り、お互いを認め合うことが必要です。そして、世界の人々を視野に入れて問題解決に向けて行動できる社会人になっていかななくてはならないと思います。

学園生活を振り返ってみると、どこを切り取っても輝かしい思い出で溢れています。その中でも特に印象に残っているのが、高校3年生の体育会です。当日は残念ながら雨の中の開催となりました。悪天候の中、私たちはどの競技にも真剣に取り組みました。特に、綱引きや三十人三十一脚などの団結力を必要とする競

技では、最高学年にふさわしい姿を示すことができました。私たちの学年はみんな仲が良く、ぶつかることはあってもお互いがお互いの意見を大切にしあえる学年でした。私の学園生活は大切な友人たちを抜きには語れません。毎日を鮮やかに彩ってくれた友人たちにこの場を借りて感謝をしたいと思います。みんな本当にありがとうございます。

先生方には時に厳しく、時には優しく様々な場面で支え、励ましていただきました。「目標に向かって歩んでいくときは、自分の力量よりも高い目標をもち、その目標と今の力量との差を埋めるために努力する。その努力する姿勢が自分自身を成長させる」ということを教えていただきました。これは学園生活においても大切でなく、これからの人生においても大切なことだと思います。私たちはこれから先も高い目標を掲げ、常に自分を成長させ続けたいと思います。

そして、私たちのことを一番近くで支え続けてくれたのは家族です。毎日お弁当を作ってくれたり、部活動の送り迎えや応援をしてくれたり、どんな時でも一番の応援団でした。生意気なことを言っ



て困らせたこともありましたが。それでも背中を押してくれる家族への感謝は言い尽くせません。卒業生一同、それぞれが家族の一員であることに誇りを持っていきます。これからは支えてもらった以上に恩返しができるように日々努力していきます。本当にありがとうございます。これからもよろしくお願ひします。

在校生の皆さんに大切にしてほしいことがあります。それは自分の可能性や力を信じ、新しいことに積極的に挑戦することです。もちろん失敗や苦勞もあるでしょう。しかし、失敗は必ず自分を成長させてくれる糧になります。「挑戦無くして失敗無し。失敗無くして成功無し」失敗を恐れずにチャレンジして自分を成長させてください。様々な人の支えがあつてこそ自分だということを忘れず、感謝の気持ちを胸に過こしてください。

今日を以て私たちは通い慣れた金光学園を卒業し、夢や目標に向かって歩み始めます。これから進んでいく道は決して楽しい事ばかりではないでしょう。金光学園で学んだことを心の支えとして、何事も諦めず、どんなことも乗り越えていきたいと思ひます。最後になりましたが、

これまでお世話になったすべての皆様に深く感謝の意を表すとともに、伝統ある金光学園の更なる発展を願ひ、答辞とさせていただきます。



贈る言葉

自分の中にあります。自分の目指すものへ自分自身こうありたいという姿へ変化していくために、自分自身の可能性を信じて一つ一つ今出来る事を続けていきたいと思います。さらに大きく逞しく成長した皆さんにまた会えることを楽しみに、そして私自身もさらなる変化を遂げるために毎日を過ごしていきたいと思ひます。卒業おめでとう。

さらなる進化を

友田 勝巳

みなさん卒業おめでとうございます。高校生活の3年間をみなさんと一緒に過ごすことができ、とても幸せでした。さて、あるインターネットの世論調査によると、日本の理想的なリーダーとして、歴史の教科書から消えるという噂のある坂本龍馬が第一位に挙がったようです。閉塞感の続く今の日本において、明治維新という大変革の大きなきっかけとなつた彼の生き様は、まさに今の日本が求め

答辞 送辞はそれぞれの起草委員会で作られたものである。

◇答辞起草委員◇

高3	植田七菜子	吉原 光
	堀 啓造	宮寄 有沙
	難波 拓真	平田 佳士
	井上 永遠	祐延 輔
	渡邊 時成	岡本 樹生
	大島 幹太	桑原 宏太

◇送辞起草委員◇

高2	信岡 駿良	猪原 香子
	貞清 晋吾	茅野亜衣子
	眞田明日香	平井 史織
	原田 祐里	水田 健斗
	荒金 大輝	加藤 優一
高1	平井 音於	森本 大心
	川上 伶奈	宮 優花
	安部 真歩	磯辺 凜花
	西原 璃湖	藤井 優妃
	小川 真央	組島梨央奈
	木村 蒼弦	渡辺 陽

変化への鍵は自分の中に

高3学年主任 森下 美穂

私は幼い頃、裏庭のキンカンに生みつけられた小さな黄色い卵から黒い幼虫が生まれ、キンカンの葉を食べて大きくなり青虫へと変化し、その後さなぎにそして最後に大きなアゲハチョウになる姿を観察するのがとても好きでした。いつの頃からか教師になることを目指し、運良く学園に勤めることとなり皆さんと出会いました。皆さんとは3年ないし5年という長いつきあいでしたが、最初は明るく元氣よく何にでも興味を示す皆さんが、少しずつ逞しく成長し変化していく姿を見るのも楽しいものでした。今最大の関心事は、今後皆さんがどのような変化を遂げるかです。その変化を予想することはなかなか難しく答えはすぐには出てきませんが、それぞれに自分らしく様々な変化を遂げることを思ひます。しかし皆さんはまだまだ大きな変化を迎えるための通過点に立っています。変化への鍵は

る人物としてふさわしいと思えるかもしれませんが。作家の司馬遼太郎は、長編歴史小説『竜馬がゆく』の中で「天がこの国の歴史の混乱を收拾するためにこの若者を地上にくだし、その使命が終わったとき惜しげもなく天に召しかえした」と書いているように、坂本龍馬は維新史の奇跡といわれる人物です。それとともに、幕末の混乱期にあつて、時代の風を読み、いち早く象徴的に自己変革を果たした人物です。坂本龍馬が友人の榎垣清治と行きあつたに、自分を変革していた有名な話があります。「長い刀から短い刀」「短い刀からピストル」「ピストルから万国公法」というように、古い武器から新しい武器、新しい武器から法律に、変化の象徴を求めながら、自分自身の変化を告げた話です。龍馬の変革は、そのまま彼が「土佐藩人から日本人へ」「日本人から国際人へ」という転換をおこなっていったということでしょう。今の世の中で活動しようとも、世界の動きを無視して

は仕事もできません。「常に広い視野と情報収集」が大事です。そして、「絶えず、自己変革をおこない続ける」ことが成功の秘訣でしょう。

金光学園を卒業して新しい扉を開いて進んでいくみなさんが、夢と勇気あふれる人間として活躍することをいつまでも応援し、見守っています。

しあわせをいつもごぶんのころに

天野 浩美

ご卒業おめでとございます。3年間、素直で優しいみなさんと一緒に過ごせたことを幸せに思います。特に高校3年生という、人生の転機とも言える重大な時期に一緒に悩んだり苦しんだりしながら乗り越えてきた日々は、私にとっても人生の糧になることと思います。

今年のお正月の新聞を読んでいたら、次のような記事が載っていました。OECDが世界各地の15歳に尋ねた幸福度調査で、「生活に十分満足している」と答えた割合は、世界47カ国中、日本はなんと43位すなわちワースト5位。記事では、この調査が学力と幸福感の結びつきを分析し、子どもの未来に役立てることを狙

いとしていることなどの説明が続きます。そんな記事を読みながら、「幸せ」って何だろうと漠然と考えていました。

私の好きな詩人・書家の相田みつをさんの言葉に「しあわせはいつもごぶんのころがさめる」というものがあります。これまで、偏差値とか〇〇ランキングとか、みなさんが何かと気にしたり振りまわされたりしてきたものは、誰かの物差しで計られたものだったのではないのでしょうか。もちろん、そういう相対的な評価で縛ってしまふ世の中にあつて、自分だけの絶対評価を貫きなさい、というのは無理があると思います。けれど、心の中にはいつも自分の幸せの物差しを持っていて、それを大切にしていくな余裕もあつてもいいんじゃないかと思ったりもするのです。

先の幸福度調査の1位はドミニカ共和国でした。一方、国連調査による経済や福祉、政治状況などを併せた指標では、ドミニカ共和国は155カ国中86位と下位に入っています。変化の著しい世の中にあつて、価値も多様化しています。何が幸せで何が幸せでないのか、「幸せのかたち」も様々であるからこそ、誰と比べるものもない、自分なりの幸せを感じ、大切に

失敗談を自分が行う政治に生かすという姿勢を持っていたようです。私的な見解ですが、私は日本史や世界史などの一般的な歴史だけではなく、いわゆる勉強というものをすべてが、歴史に当てはまると考えています。数学はこれまでの人々が考えた理論・公式などを我々が学んでいるわけですし、英語だって英語という言葉を考えてコミュニケーションの手段として用いる中で文化的な影響を受けて現在のようなたちになっている、まさに勉強。そのものが今この瞬間より前の過去の産物だと思えます。そういう意味でも、「歴史に学ぶ」という姿勢は人生において、常に持ち合わせておくべき姿勢だと考えます。

ただ、やはり人間、経験してみなくては分からないことも多々あります。直近の経験でいえば、受験については事前の様々な情報を入力して臨んだわけですが、経験してみても初めてわかった緊張感など様々あつたと思います。ビスマルク的にいえば、経験から学ぶ者は愚か者になりますが、果たしてそうでしょうか。むしろ、大切なのは経験を今後はどう生かすかではないでしょうか。

みなさんは春からそれぞれの道へ巣立っていきます。そして、また新たな環境で新たな出会いがあることは間違いありません。どんな世界でも大切なのは、周囲の方々や環境（皆さんが出会う新たな環境や人々もそれぞれに歴史や生い立ちがあるという意味では、歴史、などではないでしょうか）から学ぶ姿勢を持ちつつ、まだまだ未熟な部分がある。だからこそ様々な経験をする中でもっとも自分らしく前向きな人生を謳歌してください。あらためてご卒業本当におめでとう。そして、たくさんさんの素敵な想い出をありがとう！

卒業おめでとう

高田 直樹

みんなとの昨年の出会いは衝撃でしかなかった。正直な感想はこんなにも素直な学年があるのか、という驚きの連続。クラスでも授業でも学年、学校行事でも、本当に3年生は素直さの塊だった。みんなはその素晴らしさにまだ気付いていない。その力は、大学にいつても、社会人になつてもみんなの武器になるはず。素

していつてほしいと心から願っています。

経験は財産

水野 大一

皆さん、晴れてご卒業、本当におめでとうございます。みなさんと出会ってからはや3年。入学式の日のことを昨日のように思い出しますが、もう3年経ってしまつたんですね。本当に月日の流れは早いです。

さて、この3年間、みなさんは一人ひとりが様々な経験を積んできたことは間違いないと思います。そして、それらの経験に関して後で思うことは、「〇〇しておいてよかった」、「〇〇しなくてよかった」、「〇〇しなくて後悔した」というもの大抵が分類されると思います。もちろん、前者のように結果がよかった場合が一番よいのですが、すべてがそうとはいきません。ここで一つ歴史の教員としてドイツ初代宰相のビスマルクの言葉を紹介したいと思います。彼は、「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」という言葉を残しています。彼は為政者でしたので、過去の偉大な為政者の考え方や行動、成功談や

直さがあれば、どんどん自分を磨くこともできる。人に信用され、出会いに恵まれるようになる。これからみんなは、自分で想像している以上の素晴らしい未来が待っているはず。ただ、そんな3年生に今後の課題があるとすれば、それは主体性、自ら考えて、行動する力だろう。素直に言われたことは全力でできる、そこに自分の意見をしっかりと持ち、もつとこうできる、こう工夫できる、そして行動する。ぜひそんな人間になつてほしいと思う。卒業して、またいつかみんなと出会った時にさらなる成長した人になつて会えることを楽しみにしています。素直なみんなならきっとできるはず。楽しみにしています。本当に心から卒業おめでとう！

急ぐべからず

垣内 寿生

徳川家康は「人の一生は、重き荷を負いて長き道を行くが如くなり。急ぐべからず。」という言葉を残しています。「重き荷」とか「長き道」というと、人生は辛く悲しいものだと思痴を言っているように聞こえますが、そうではありません。

この言葉は、目的地へ着くのをただ急ぐのではなく、道中の風景や行き交う人々との触れ合いを楽しみなさい、人情を味わいなさい、という家康の人生に対する処方箋のように思えます。特に最後の「急ぐべからず」が急所を突いていて、何かほっとする心持ちにさせられます。

年を取ったせいでしょうか、物事の成否に拘る事が少なくなってきた、「どちらでも良い」と思うことが多くなりました。長男の受験の時も、「何が何でも合格して欲しい」とは思いませんでした。こういう言い方をすると本人に失礼なようですが、受験に至るまでに本人が精一杯の努力をしてきたことを知っていましたので、例え結果がどちらに転んでも、必ず次の道へつながるような親としての確信があったのです。受験は本人にしてみたら「重き荷」に間違いありません。合格への道は「長く果てしない道」のように思えることでしょうか。しかし、大切なことは「重き荷」を背負ったまま苦しくても歩き続けることであり、途中をとばして目的地に着く事は出来ないということです。道中のあらゆる出来事が、その人の人間性を高めてくれます。まさに「急ぐべからず」

なのです。

人の一生は、「旅」であり「修行」であると言えます。しかし、辛く苦しい中を菌をギリギリ言わせながらの旅であっては、最後はくたびれて、歩くのを止めてしまいか、体を壊して歩けなくなってしまうでしょう。旅は楽しくありたいものです。心にゆとりを持ちたいものです。移り行く風景を楽しみ、出会った人と楽しく語らいながら、気がついてみたら「もうこんなところまで来ていたか」というのが、家康の目指していた「旅人」の姿ではないでしょうか？

今、この瞬間から始めよう！

久繁 正人

卒業おめでとうございます。3年間な いしは6年間の金光学園生活も今日で終わりです。皆さんにとって、学園生活はどのようなものでしたか。楽しいこと、苦しいこと、それぞれ感じ方は異なると思いますが、本当に多くのことを経験してきたのではないかと思います。

「金光学園で何をしてきましたか？」と問われて、すぐに答えが出てきますか。少なくともこの1年間ずっと闘ってきた受験

勉強のことは出てくるのではないかと思います。その忘れられない1年間、皆さんと一緒に過ごし、皆さんと関わったことは本当に幸運だったと思います。

もし、金光学園でやり残したことや挑戦できなかったことがあるならば、今、この瞬間から挑戦し始めましょう。あれがやりたい、これもやりたい……やりたいことをあげればキリがないと思います。しかし、思っているだけでは、何も実現しません。ずっと考えていて、いつかやるうと思っていることも、機会を逃せば、一生できないことになるかもしれません。「いつか」は無いかもしれません。これからの人生で皆さんは多くのチャンスに巡り合うと思います。そのチャンスに逃さないように、しっかりと行動できる人になっていって欲しいと思います。

最後に、私の好きな曲の歌詞を、皆さんに贈る最後の言葉とさせていただきます。もうすぐ今日が終わる。やり残したことはないか。親友と語り合ったこと。燃えるような恋をしたか。一生忘れなような出来事に会えたか。かけがえない時間を胸に刻み込んだか。またすぐ明日に変わる。忘れてしまつて

いないか。残された日々の短さ、過ぎ行く時の早さを。一生なんて一瞬さ。命を燃やしてるかい。かけがえない時間を胸に刻み込んだかい。――

『かりゆし58 オワリはじまり』

前進あるのみ

佐藤 径

「続けるコツ 二歩進んで二歩下がる それでも一歩は 進んでいるよ」という短歌で伝えたいことを英語で表現するならば、このような感じでしょうか。

Take three steps forward, and two steps back. You will have one step of progress.

卒業おめでとうございます。皆さんと3年間を過ごす中で、「もっとがんばればよー」と思うことや、「すごいなあ」と感心することや、色々なことがありました。今思えば「恥ずかしいなあ」と思うこともあったかもしれません。しかし、人は様々な「失敗」を通して成長するというのは真実です。人に言えないような、極めて悲凉的な経験だと自分で思っていることがあっても、Be positive. いくつか役に立つと思つて下さい。そのようなこと

を経験した人にしかわからない何かがあります。Be more creative. 一度しかない人生を楽しんでください。Be proud. そんな自分に誇りをもって生きてください。自分らしく。Be yourself.

最後に、「ゴール前 何が起るか 分からない 自分を信じて 前進あるのみ」という短歌で伝えたいことを英語で表現するならばこのような感じでしょうか。

Go for your dream, believing in yourself. I will always believe in you, too.

数学は美しい

山本 澄枝

スマートで無駄のないエレガントな定理を知った瞬間、なんて数学は美しいのだろうと感動します。数学というものは、ただ問題集に載っている問題を解くためだけに学ぶものではなく、課題と向き合うことで自分の「論理的思考能力」を鍛え、さらに世の中を生き抜く「脳力」を磨くために学ぶものだ、私は思っています。機械的な作業に終わることなく、「この先はどこに続くのか、何の中の一部なのか、私の生き方はどうなのか」など、数学の魅力は私を飽きさせることはありません。

皆さんが小学校から毎日学習していた算数や数学。卒業とともにこれで数学に触れる機会が少なくなる人もいることでしょう。ですが、大人になってから改めて数学に触れてみると、苦勞し続けたことが意外と簡単に理解できて面白いかもしれない。今まで見えなかったものが、長い思考の中で急に見えるようになる。これが魅力の一つです。数学はややもすると、計算など実践ばかりが注目されがちですが、実は、何かを考える時や何かに向き合う時に、数学による考え方を武器にすることはとても有益だと思っています。

私は3年前皆さんに、「3年後に抱き合うためにみんなと出会った。3年後に抱き合おう。」と言いました。そして、この3年間皆さんにはもしかしらたらきついことや気に障ることを口にしたことがあるかもしれません。しかし、心の中はかけがえないかわいひ皆さんのことを我が子のように思い、一人ひとりがしっかりと前に進んでほしいと願ひ続けてきたのです。

そしてついに卒業式。私は皆さんに「ここまでよく頑張ってきたね、おめでとう」

と一人ひとりの顔を見ながら言いたいのです。と同時に皆さんには、普段形としてなかなか表せないご両親への感謝の気持ちを、この「卒業」という節目に自分自身で是非伝えて欲しいのです。ご両親からいただいたかけがえのない「いのち」を大切にしながら進んでください。

「卒業、おめでとう。」

人生は、うまくいかないからこそ面白い

久保田 光盛

目をつぶると、6年前、皆さんが緊張いっぱい金光学園に入学した時のことが浮かびます。心身ともに大きく成長する中学校・高校の時期に、共に過ごせたことを本当に嬉しく思います。これから明るい未来へ羽ばたく皆さんへどんな贈る言葉が最良なのか、ずっと考えていました。僕の人生を振り返り、一番腑に落ちている言葉を贈ります。

「人生は、うまくいかないからこそ面白い」皆さんの18年間の人生を振り返ってみましょう。思い通りになったことと、そうでないこと、どちらが多いでしょうか。思い通りに人生が展開している人は素晴

らしいです。その調子でどんどん思い描いた未来をデザインしてください。一方、多くの人が思い通りにならなかったことの方が多いのではないのでしょうか。私事ですが、僕は中学入試、高校入試、大学入試、第一志望校はすべて不合格でした。でも、今とても幸せです。もちろん、第一志望校に落ちた瞬間は落ち込みました。でも、すべての出来事には意味がある。人生に無駄ことはない。そう思えた時に、「人生は、うまくいかないからこそ面白い」と思えるようになりました。

もし、これからの人生で思い通りにならないことが起こった時、「そう来るか！どんな神様からのメッセージなのだろう？」「よし！受けて立ってやる！」と、うまくいかないことを楽しめる気持ちになれば、人生がもっと豊かになるかもしれません。思い通りにならないことがたくさんあるからこそ、うまくいった事柄や、その時に関わってくれた周囲の人に感謝の気持ち湧き出てきます。たとえば、10の出来事のうち、9つの失敗やうまくいかないことがあるからこそ、1回の成功に感謝できるようになるのです。皆さんに、これからどんな人生が待つ

使いや行動に幼さは感じるものの皆「良い人」なのだと感じています。あえて注文を付けるのであれば、もう少し素直に好意を示した方がいいと思います。照れて素直になれず誤解を受けてしまうことも多かったですように感じられました。これからは、照れずにそして素直に行動に移してほしいと思います。

また、例年と違って今年文系の人たちともよくお話をしたように思います。近年高2文系化学基礎を担当する関係で、文系の生徒に授業をする機会があり、今年のように3年生から学年に入ると、「理系よりむしろ顔見知りが多い」という変わった1年になりました。例年とは比較にならないくらい名前も覚えられました。正直、進路課として力になれたかどうかわかりませんが、話しかけてもらえたことがとてもうれしく、とりとめのない話をして皆に迷惑をかけたのではないかと、気を使わせたのではないかと、今になって思います。この場を借りてお詫びします。

自分でも何を書いているのかよくわからなくなってきましたので、そろそろ終わりにしようと思いますが、最後に一つだけ言わせてもらいたいと思います。人

生で無駄になることは何一つありません。いい加減な気持ちで臨めば、何も得るものがなく、真剣に取り組めばどんな小さなことでも必ず得るものがあります。今はまだわからないと思います。半信半疑でも構いません。心に留めておいてください。最後にもう一度、皆さんご卒業おめでとうございます。皆さんの未来が実り多いものになることを心より願っています。

前向きでワクワクできる人生を

岡崎 裕

卒業おめでとうございます。理系の人とは授業や補習で2年間の、天文部の人とは6年間の思い出があります。この学年は、掃除や作業をいつも一生懸命する素晴らしい学年でした。人なつっこい人が多く、仲良く、楽しく、良い思い出ばかりです。

化学ゼミの人は、高校生科学技術チャレンジJSECで全国30に選ばれ最終審査に招待され東京の科学未来館に行つて発表しました。私にとっても学校にとっても初めての体験でした。

みなさんは入試という大きい試験を迎

ているのか。想像するだけでワクワクします。これからも、金光町の片隅で、皆さんの幸せを神様に祈っています。改めて言わせてください。「卒業、本当におめでとう」。幸せな人生を歩んでください。

卒業式を迎えるみなさんへ

内村 政司

皆さんご卒業おめでとうございます。1年間という短い期間ではありましたが、私にとっては思い出深い学年でありました。皆さんにとってはどうだったのか気になるころではありますが、意義深い実りある1年であったとすれば幸いです。

3年生の指導は3年ぶりではありますが、学園にやってくるから半分以上は高3学年団ということで、「慣れている。」と思われるかもしれませんが、毎年いろいろなことが起こり、そういう意味では今年もスリリングでハードな1年ではありました。もちろん、その分多くの楽しいこと、うれしいことも多くあり、非常に充実した1年になりました。例えば、学校行事の際の出席率の高さや友人が困っていると進んで手を差し伸べようとする姿を見る機会が多くあり、正直言葉

え、それぞれに現実的な選択を迫られた体験をしました。成功しても失敗しても「人生は不可逆反応」です。すべてはこれからの人生のための貴重な経験です。大学へ行けば、高校時代に描いていたとは違った世界が見えてきます。大学では、世俗から離れた思いっきり大きい視野から世界観を築いて欲しいと思います。基礎と専門をしっかり身に付けつつ、既成概念に固まらない、それを超える、あなたらしい充実した人生を送ってください。



卒業短歌

■ 1組 ■

寒空に来たる春の日を乞い願う
メタセコイアはそれぞれの街へ
井手内 陸

いざ行かん未来へ続くこの道を
学園でつくった思い出胸に
才野 隼

かえり道反省後悔しむむ気も
友に話せば明日につながる
金子 ゆり

青春のページめくるたび思い出す
君と過ごした笑顔の毎日
若狭ひとみ

■ 2組 ■

毎授業終わると友とベランダへ
眼下に広がる第二の故郷
大田 港斗

一人きり机に向かい思い出す
仲間の声と風を切る音
小林 裕士

食堂のカレーがすっごく好きでした
理由はどこか母のと似てる
深井菜乃子

炎天下勝負の一瞬風が止み
空に響くピストルの音
藤井 美帆

■ 3組 ■

六年間変わらぬ道で学校へ
四季折々の匂いを感じて
佐藤 直人

別れ際サヨナラと告げ歩き出す
涙で気づくサヨナラの意味
高村 塁

今までの険しい壁をのりこえて
俺の心は春を感じた
西井裕次郎

怒られた行きたくないと思う夜
気付けば手にはトランペットが。
吉田 睦

■ 4組 ■

冬の朝かじかんだ手を温めて
勢いつけて扉を開ける
大野 侃那

白球を追いかけながら思ってた
楽しんでるか高校野球
田中 晴之

燃ゆる空校内駆けるは管楽と
帰宅促す鐘の音かな
坂本明綺子

今日までのなみだを遠い草原に
あしたへ続く道がはじまる
浪越 素子

■ 5組 ■

学園で友とすごした6年は
かけがえのない大事な思い出
赤澤 春輝

友人と支え合いつつ乗り越えた
この思い出はずっと心に
戸田 勝己

「じゃあまたね」またねは明日でないけれど
瞬く六年よ追いつ風になれ
小出 尚寛

六年間通った道に別れ告げ
まだ未来見えぬ路へ踏み出す
中藤 駿

■ 6組 ■

友人と支え合いつつ乗り越えた
この思い出はずっと心に
戸田 勝己

マウンドでもがき続けた三年間
またもう一度夢を追いたい
安原 晴樹

ひと夏の季節めぐった金属音
風に吹かれてどこへとかう
山根 尚将

学園の学舎見詰め六年間
友達のはきはきく
青木 悠祐

六年の過ぎ去りし日を顧みん
散りゆく桜の如くなるかな
藤本 大翔

六年間ここで過ごした思い出は
色あせることなく心の中に
森永 有美

■ 7組 ■

鳴り響く試合終了ホイッスル
全てを出したが止まらぬ涙
神原 隆太

六時半寒さとともに列車まつ
弁当持つ手に母のぬくもり
妹尾 謙大

未来へと繋がる空がぼやけてる
掴み取るからわたしだけの夢
鬼塚 明希

未来へと繋がる空がぼやけてる
掴み取るからわたしだけの夢
鬼塚 明希

卒業を前に思うこと

生徒

第二の我が家

1組 吉原 光

私は今、卒業を迎え、6年前にこの金光学園に通うことを決断した時のことを思い出します。期待に胸を躍らせながら金光学園の門をくぐりました。中学1年生から高校3年生までの6年間をこの金光学園で過ごせたことを誇りに思うとともに、様々な場面で支えて下さった全ての方への感謝の気持ちでいっぱいです。今になり振り返ってみると、本当に金光学園の先生は優しく面白く、親切な方々ばかりで、本当に何でも言える家族のような存在でした。私が歩んできたこの6年間は楽しいことばかりではありませんでした。しょうもないことに悩み、涙する日もありました。それでも学校に行く和家人のような先生方、友達、先輩方、後輩達がいって、いつも私に元気をくれました。

した。受験期は特に金光学園の温かさを感じました。本当にびっくりするほど世話を焼いてくれたりと、私以上に私の合格を喜んでくれたりと、本当に家族のような感じができた。金光学園に6年間通ったからこそ気付くことができる金光学園の良さがあります。完璧ではないけれど、心がホッとできるような温かさがあります。卒業してからでも何度も帰ってきたくなるアットホームさがあります。ここに来たからこそその出会いをこれからも大切にしていきたいです。6年間お世話になりました。行ってきます。

我が母校、金光学園

2組 澤田 夕珠姫

私が、金光学園の門を潜ってから6年という月日が流れたことに驚きを隠せません。金光学園での学びの中で苦労したこと、努力したことが輝かしい宝物となつて今の私を照らしてくれていることは間



心を持つことが人間の原点だと思っています。金光学園は、常日頃から私達にそれを語りかけ、その恩恵を受けながら、仲間と机を寄せ合い学べたことは、私の誇りです。卒業生一同、そう感じていると思います。金光学園は今年で創立百二十四年を迎える伝統校で、私達はその長い歴史を受け継ぎながら、新しい歴史を築いています。私は、そのことを宗教の授業を通じて強く感じました。今まで金光学園に携わってこられた先生方や先輩方の熱い思いや、物事の捉え方に私は大きく心動かされました。特に印象に残っているのは、「自分にはないものに不平を言うのではなく、あるものに感謝する心を持つ」というものでした。これからの新しい門出にこの言葉を胸に刻んでいられることを嬉しく思います。素敵な6年間をありがとうございました。

豪校とは比べ物にならないほど劣っていた。だからこそ、私達ができる最高のステージを実現する為に、何度も同級生や先輩達と話し合った。結局行き着いたのは合言葉である「あたりまえのことだ。あたりまえにしよう」ということだった。楽器の練習も歌もダンスも挨拶も掃除もすべて全力でするのが当たり前。しかし、それを約60名の部員全員がするということとはすごく難しいことだった。毎日短い練習時間の中で、最高のステージを作るために日々奮闘した。うまくいかないことは沢山あったが、老人ホームの訪問演奏で涙ながらに演奏を聴いてくれたおばあちゃん、楽しい演奏会だったと言ってくれたお客さん、そして大切な17人の同級生と楽しくも辛い日々の思い出は受験期に私の糧となった。特に、沢山の候補の中から日本代表としてアメリカ訪問演奏の依頼が来た時は本当に嬉しかった。何代も前の先輩から受け継いできた思いが認められたと思った。この経験を私は絶対に無駄にしない。大学での4年間もその先も。

金光学園でよかった

4組 玉川 元貴

本当に濃い6年間を過ごした。沢山の人と出会い、沢山楽しんで、沢山悔しがった。数ある思い出の中、特に僕の学園生活を輝かせたのは高校野球だ。「日本一のチームになろう!」

この目標の為に全員が意見を出し合い鼓舞した。時にはチームメイト同士でぶつかり合うことも、叱ることもあった。

輝け、今も未来も

3組 藤川 美羽

私が金光学園で過ごした6年間、最も心に残る思い出はプラスチックバンドでの活動の日々だ。

演奏技術も練習環境も、県内県外の強

最後に、先生や友達に恵まれて、本当に金光学園で密度の濃い時間を過ごすこ



それでもうまくいかない時は、納得いくまですぐに全責で話し合った。うまく行った時は喜び、みんなでしっかりと褒め合った。みんなで遠くまで走った。北海道でも走った。沢山トレーニングをした。マネージャーのおにぎりをみんなで食べた。あの日誰かがあの場で打った。あの日あいつがすごく怒られた。あの時のあいつはすごかった。卒業を迎えた今でも、昨日のこのように鮮明に覚えている。それほど楽しかったし、悔しかった。でもこの思い出ができたのも、野球部の仲間やクラスの間、学年を超えた沢山の仲間ができたのも、全て先生、そして金光学園のおかげだ。僕たちに一生の思い出をくれてありがとう。一生の仲間に出会わせてくれてありがとう。次のステップに進ん



でいく際も、「人をたいせつに、自分をたいせつに、物をたいせつに」の精神を忘れず、大きく成長してみせます。改めて、本当にありがとうございます。

高入生としての3年間

5組 菅野 涼

僕は高校から3年間、金光学園の生徒として過ごしてきました。3年は字にすると長いようで、実際に過ごしてみると、とても早いものでした。3年間、中高一貫である金光学園に高校から入学し、みんなからしてみれば、部外者のような存在だったかもしれません。しかし、みんなはそんな僕を普通に受け入れてくれました。知り合いがほとんどおらず、不安だった僕に話しかけてくれたことは今でも鮮明に覚えています。そして段々と友達も増え、部活に入ることがで沢山の先輩にも出会うことができました。いい奴や優しい先輩ばかりではありませんでしたが、沢山のひと知り合えたことは、僕にとつととても嬉しいことでした。友達の友達や先輩の友達など、どんな僕のことを知っている人も増え、知らない人に廊下で話かけられることもあり、嬉しかった



ことを覚えています。また、体育会やほつま祭、球技大会等の学校行事もとても楽しく、高入生なのに高入生ではないような6年に匹敵するくらいの充実した3年間を過ごすことができたと思います。それは僕だけの力ではなく、沢山の友達や先輩達と出会うことができたからです。この思い出はきっと僕の一生において、忘れることのできない大切な宝物だと思います。

様々な人への感謝

6組 滝口 道雄

私はこの学校で、本当に人に恵まれました。顧問の先生、OBの方々、学年団

の先生、かけがえない友人たち。私は中学からの6年間、そのおよそ九割は自分のやりたいことをしてきました。文芸部、文芸部での活動は勿論のこと、部活動以外でも天文関係のイベントに参加したり、家で月を観望したりしたことを覚えていきます。でも、裏を返せば自分がやりたくないけど必要なことは1割にすら満たなかったとも言えます。そんな中ですから、高校3年生になっていざ大学受験にどう臨むのかとなった時、初めて自分はこの先どうするのかという問題に直面しました。学校の宿題や必要な勉強よりも、自分の興味ある勉強と研究しかしてこなかった私は推薦入試を受けるほどの評定点を持っていなかったので、でも、私が高校で活動してきた足跡は確かに残されていた。本当に好きな事だけをして過ごしてきたのに、自然とそれがAO入試への対策となっていた。自分の行った活動が成果へと変わったのは、全て周りの人からの助けがあったからです。そもそもAO入試の制度をよく知らなければ活動があったとしても何も無かったし、部の活動が成果として見せられる方向へ導いて下さらなかったら意味は無かった。あら

ゆる働きに感謝しています。

3年間を終えて

7組 細井 恵里子

高校生活3年間のほとんどを、私は自分らしい留学を実現するために費やしました。

入学初日にブラジルからの留学生、リリーに出会い、たくさんの話をし、刺激をもらいました。彼女は目的や将来の方向性をしっかりと見据えて日本に来ていました。彼女を参考に、もう一度自分を見つめ直し、私にしかできない留学プランを作りました。先生方の協力のもと、気の滅入るような申請書作成に取り組みました。文章で熱意を伝える難しさを痛感し、プレゼンテーションでは自分の言葉で相手に理解してもらうにはどうすればよいか試行錯誤しましたが、私自身の将来の目標や、追求していきたいことが明確になりました。

そして、奨学金を得てマルタ共和国への留学が叶いました。現地でのプログラムの要求、交渉も一人で行い、ずっと憧れていた地中海でヨットに乗りました。海の透明度や水平線に感動し、時には今



まで見たこともない高い波や強風に苦戦しました。この留学は私を奮起させ、また自分の力で実現し、充実させる経験を与えてくれました。学園の先生方は、いつも協力的で理解をして下さいました。私を受け入れてくれた人達との出会いに感謝しています。

保護者

感謝と想い

1組保護者 藤澤 まゆみ

二人の子供のお陰で金光学園とご縁を頂き、早いもので9年が経ちました。子供達は勉強、部活動、その他学園行事、研修に参加させて頂き多くの事を学び、とても充実した日々を過ごす事ができました。二人とも卓球部で6年間精神と技を鍛え、中国大会にも出場させて頂き、とても良い経験となりました。部活動を通して、自分の立場や役割を考えて行動できるように成長したと思います。仲間と共に切磋琢磨して頑張り、喜びを分かちあい、困難を乗り越え、苦しい時、ピンチの時、逃げるのではなく立ち向かう勇氣を持てるようになった事が今後の人生で強い力になっていくと信じています。これから先も勉強は一生続いていきます。テストのために勉強するのではなく、人生を楽しむ為の学びとして何事にも興味を持ち、知識、教養を広げていって欲しいと思います。金光学園の合言葉を胸に今まで自分を支えて下さった方々のお陰で今の自分があることを忘れず、謙虚に

人のお役に立てるように目標に向かって頑張つて欲しいです。「ちはははも子どもともうまれたり そだたねばならぬ子もちははも」のお言葉通り、子供達だけでなく私達保護者も共に多くの事を学び育て頂き、楽しませて下さった金光学園と先生方に心より感謝しています。本当にありがとうございます。

サクラサク（未来へ）

2組保護者 村上 理絵

「僕、金光学園に行く！」オープンスタールの帰りの道。12歳の決断は実を結び、福山の同じ小学校から8名。メタセコイヤの並木道を通って入学式に出席することができました。

あれから6年……。振り返ると、沢山の友達と、尊敬する先生方の顔、情景が思い浮かびます。

△中・高サッカー部▽

「絶対サッカー部！」と迷わず入部。走力が欲しいと毎朝ランニングをし、顧問の先生方の熱心なご指導のもと、県大会に出場させて頂く機会もありました。ピッピッピーのホイッスルが鳴るまで、ひたすら走つて！ 走つて！ 走り続け、



見る機会は新たな一面を知る貴重な時間でした。私は役員活動ではつま祭のバザーの販売員と模擬店を経験させて頂きましたが、保護者の方が奉仕の心を持ちながら、生き生きと活動を楽しまれている姿には感銘を受けました。

△学び▽

センター試験に向かう子どもの姿を見送りながら、かばんにパンパンに積み込んだ教科書と参考書、そして学校での学びを背負った背中がとて大きく感じ涙が止まりませんでした。成績が伸び悩み苦しかった事、進路相談、受験対策、全てに担任の先生が真摯に向き合ってくださり、どれだけ心強かったことでしょう。



言葉にできない程の感謝の気持ちでいっぱいです。

△夢▽

世のお役に立つ人材を育成する学園の精神を教えてくださった校長先生。

身体を張って共にボールを蹴り、絶対的な信頼を寄せていた中・高サッカー部顧問の先生方。

個性を尊重し、最後まで一人ずつを見守り支えてくださった中・高学年団の先生方。

早朝の登校指導、学年を超えて笑顔で温かい言葉をかけてくださった先生方。

学園の素晴らしい先生方の姿を見て育った息子の夢は「教師」になることです。改めまして金光学園全ての先生方、心のこもった親切なご指導を頂きましてありがとうございます。

そして卒業……。サクラサクの便りが手元に届き、4月から一人暮らしが始まります。卒業生皆様の夢と希望を春風にのせて、未来へと届きますように……。また、金光学園の教育が次世代へと続き、さらなるご発展を心からお祈り申しあげます。

卒業までの道程に感謝

3組保護者 佐藤 美晴

金光学園卒業 おめでとう！ 何と心地よい響きでしょう。

娘はこれからの人生を自信と誇りを持って大きく羽ばたいてくれると信じています。先生方には本当にお世話になりました。心より感謝申し上げます。

振り返れば、娘の学園生活は中学2年の冬から始まりました。中途からの編入で一人だけの受験でした。祈る気持ちで待った合否の電話、結果「合格」との連絡を頂いた時の笑顔と涙は今でもはつきりと思い出すことが出来ます。

しかし、希望と期待をもって望んだ学園生活でしたが、3年生になったばかりの春、娘は学力面での不安、ぎくしゃくとした友人関係等様々な壁にぶつかってしまいました。思春期特有の焦躁と反発で感情を爆発させた事も多くありましたが、その都度先生方からの親身な対応と助言を頂き無事に中学校修了式ゆずり葉の会を迎えることができました。誰よりも感激の涙を流したのは他ならぬ娘でした。やがて気持ちも晴れやかに大きな目標を持って迎えた高校生活でしたが、娘は

1年生学年末に再び大きな壁に直面したのです。現実への失望、将来への不安から投げ遣りとなり、日々を怠惰に過す娘に対して、母親として途方に暮れる毎日でした。どの様にして娘の気持ちに寄り添えば良いのか答えを見付ける事が出来ませんでした。そんな時本気で娘にぶつかり、叱って下さったのは先生方でした。早朝、夜間、休日に関係なく励まし、熱心に御指導下さったのです。学園の信条である。人をたいせつに、自分をたいせつに、物をたいせつに、を先生方は娘に実践して見せて下さったのです。

親としてこんなに有難い事はありませんでした。大人と小人の狭間にあり思う様に心の均衡を保つ事が出来ない思春期の子供達の心の叫びに対して動じる事なく耳を傾けて下さっていたのです。ともすれば孤独に陥りがちな娘に心の居場所を与えて下さったのです。娘にとつての4年半の学園生活は喜びや悲しみ様々な出来事との出会いの場でもありましたが、先生方との出会いは娘の長い人生の中でも幸せな出来事であったと思います。お陰様をもちまして嬉しい卒業の日を迎える事が出来ました。母娘共々大きく成長

させて頂いた事に対して心より感謝を申し上げます。最後にになりましたが学園の益々の御繁栄と先生方の御健勝をお祈り申し上げます。有り難うございました。

6年間を振り返って

4組保護者 三宅 恭子

期待と不安で一杯だった金光学園の入学式。もう6年も前の事ですね。

一番小さなサイズ制服でも大きくて、こんな小さな体で電車通学なんて出来るのだろうかと心配していた頃がとても懐かしく思い出されます。

娘はダンス部に所属し、勉強は後回しで学園生活を謳歌しておりましたが、高校生になり回りが受験モードになると突然勉強を頑張りはじめました。

ダンスが好き、英語が好き、学園が好き、友達が好き。好きな事が成長の糧になるんだと娘を見ていてつくづくそう思いました。

反抗期もあり辛い時期もありましたが、こうして無事に過ごして来れたのも根気強く指導してくださった先生方や友達、そして学園の温かい環境のおかげだと思



っております。

私自身、微力ですが学校行事のお手伝いをさせて頂きましたが、今思うとものとPTAの活動等に積極的に参加して学園の思い出を沢山作っておけば良かったと悔やんでいます。

ですが、温かい先生方、素直な子供たち、素晴らしい保護者の皆様に出会い、親子共々成長でき大変貴重な思い出深い6年間を過ごす事が出来ました。

娘も金光学園というホームが心の礎の一つとなってこれからの人生しっかり歩んでいけると思います。

生きる力をつけてくださった先生方から感謝いたします。ありがとうございました。

感謝・夢

5組保護者 渡辺 浩充

金光学園とは、現在大学4年生の娘・高校3年生の息子と二人お世話になりました。この10年間早いものであつという間に過ぎ、この間出会った方々のお陰で、大変有意義で、私の人生に於いても想い出深い日々を過ごせたと感じています。

小学校の時に、息子に将来について話したことがあります。「僕は、大学に行ってみよう」と言いました。我が家は建設業を営んでおり、専門の高校に進学し、何年か修行して将来は後継ぎにと思っていましたが、息子がしたい事があるならそれもいいかなと考えはじめ、それなら娘が通う金光学園が一番だと思い進学を決めました。

中学校では野球部に入部し、そこで現在の親子共々大切な仲間と出会いました。「子供は子供で、親は親で楽しんで」をモットーに一丸となってみんなで応援する試合観戦が楽しみでした。私も「ポップ」



(ポップアップに似ているから)という愛称で母親達から呼ばれはじめました。部活動を通して学ぶ事の多さ、指導者の諸先生方を尊敬し、仲間を想い、また試合に出て活躍したいと願う努力する姿を見て、子供なだけで男として成長しているのだなと感じたのもこの頃でした。

高校に入っても、野球部を続け指導者の方々、同級生で入学してきた方々が素晴らしい人達で、親子共々また良き仲間

が増え、息子のお陰で大変大きなご縁を頂きました。今でも食事やゴルフなど仲良く楽しくしています。これからも夫婦共々よろしく願います。

進路ですが、将来の夢であった大学に進学するという夢を叶え、また私と同じ職業を選んできれ、土木という専門科目を勉強することになり大変嬉しく思います。また2020年東京オリンピックが開催されます。「2度とないチャンスなので、ボランティア活動をして貢献したい」と言っております。まだまだ夢は広がっています。色々な体験をし成長できるのは、金光学園に進学できたお陰だと私は思っています。息子は、「将来立派な技術者となり大きな工事を施工し、違う形でみんなに恩返しをしたい」と言っております。

これからは金光学園卒業生という名に恥じぬよう日々精進してもらいたいものです。最後に息子の夢を叶えてくださった諸先生方、大変感謝しております。誠にありがとうございました。

子供にかける願い

6組保護者 滝口 祥雄

息子二人がそれぞれ高校と中学の卒業

を迎えるに当たり、一言御礼を申し上げます。諸先生方には、入学以来、まさに私立ならではの生徒一人ひとりに対する細やかな心遣いと丁寧なご指導を賜り、誠にありがとうございます。

いま改めて振り返ってみますと、数々のエピソードと思い出に綴られた学園生活であったように思います。その一つ一つが、子供にとっては貴重な経験になり、財産ともなりましたし、私どもにとっても、子供とともに育てて頂く修行期間であった、と感謝しております。

入学間もない頃、学園からアンケートを頂きました。その中に「わが家の教育方針」について尋ねる設問がありました。はたして、私どもにそんなものがあつただろうか、と戸惑いを感じましたが、教育方針というような大仰なものはなくとも、自らの人生は自らの手で選び取ってほしい、という願いはありました。

親をはじめとして、周囲の大人たちが子供に期待を寄せるのは当然ですが、意に反して、その期待が子供たちを縛る軛（くびき）になったとしたら、それは本末転倒というものでしょう。安易に周囲に迎合することなく、自らの人生は自らの

手で切り開くという気概を持ち、それぞれの夢や願いの実現に向けて、ここから力強くはじめの一步を踏み出して行つてほしい、と祈念いたしております。

子供の未来を信じて

7組保護者 川上 睦子

電車で40分。大丈夫かしら。少しの不安と沢山の期待でスタートした学園生活。あれから6年。心配は無用だったと子供自身がしっかりと見せてくれ、期待には、想像以上に多くの贈り物で私達親子に届えてくれました。

高校からは吹奏楽部に入部し、部活動で忙しい毎日でしたが、多くの大好きな友達、個性豊かで人生経験も豊富な楽しい先生方の事、そして何より高校生活の頭のほとんどを占めていたのでは、と思うほど夢中で頑張っていた部活の事、学校から帰り聞かせてくれる話は何れも「学園はとっても楽しく素敵なところ」と娘の学園愛のアピールのようでした。

この6年間の学園生活で、娘はこれからの人生を豊かにしてくれる、大切な「出会い」と「経験」を得たのだと思います。これらの宝物を得た娘がこれから自分で

切り開く未来は、たとえ山や谷が有ろうとも、きっと素晴らしいものであると信じます。そして、共に学園生活を送ってきた新しい一步を踏み出す皆さんの未来を心から信じています。

最後に、この6年間をささえ、かけがえないものにして下さった先生方、保護者の皆様から感謝申し上げます。



会報

第五回評議員会 2月21日 13時30分

14時20分。遠藤副会長司会。内容は以下のとおり。一、平松会長挨拶。二、協議事項。①平成30年度会長・副会長・監事選出の選考委員を決定。選考委員長、山木陽子。選考委員、眞田洋子、山本節子、田所洋子、仙石正恵、藤木千穂。②平成29年度友愛セール売上金の使途について協議の結果、高校3年普通教室7室及び高校演習教室3教室にプロジェクト設置、他ICT教育設備を、今年度高3卒業寄付と教育後援会メタセコイアの会からの寄付を合わせて寄贈することに決定。③平成30年度保護者会総会の日程。4月28日（土）に決定。④その他

第三回全役員会 2月21日 14時25分

15時50分。遠藤副会長司会。役員会の内容は以下のとおり。一、平松会長挨拶。二、金光校長挨拶。三、学校近況報告。（横山教頭）四、協議・報告事項。①指導・教養・庶務各部から年間総括と次年度への

申し送り事項。②研修・出張報告。③平成29年度会計決算見込みの報告。④平成29年度友愛セール売上金の使途について⑤平成30年度会長・副会長・監事選出の選考委員決定の報告。⑥平成30年度地区委員・評議員選出について。⑦やつなみサークル「国際交流サークルJALING」設立について。⑧金光教春の大祭の湯茶接待奉仕のお願い。⑨教職員外部診断のお願い。⑩平成29年度保護者会総会について。六、その他連絡事項。七、難波副会長による閉会挨拶。

諸人会

○1月21日 幼小中中高PTA連合研修大会（岡山）
平松会長、遠藤・大島・難波・横藤田副会長、定平・佐藤監事、佐藤事務局長、横山・山本教頭、他評議員14名が参加。

「道」で紹介している齋藤泰雄氏からメールが届いています。齋藤氏は来年度の創立記念式でご講演くださる予定です。ご期待ください。

皆様

昨日無事ビヨンチャン冬季オリンピックを終えて帰りました。おかげさまで冬季オリンピック史上最高の成績を残すことができました。今まで「スポーツは感動と勇気を与える」と言葉ではよく聞きそれなりに理解していたつもりですが今回の経験を通して心にストーンと落ちました。

トップアスリートは肉体的にも技術的にも最高レベルであることは当然ですが私が何より感動したのは彼ら、彼女らの強靱な精神力でした。羽生選手、小平選手、高木姉妹、高梨選手、宮原選手たちに共通していたのはオリンピック特有の重圧の中で自己ベストのパフォーマンスをやっける自信とそれを裏付ける日頃の努力です。

こうした若い選手を見ていて、また話していて学ぶことが多い3週間でした。本当に良い経験をさせてもらいました。彼ら、彼女らは日本の宝であり誇りです。スポーツ界にとどまらず日本を代表して幅広い方面で活躍してほしいとお願ひしました。きっとメッセージは届いたと思います。

日本人選手のオリンピックはじめてのドーピング疑惑に始まった大会でしたが最終日にマススタートの金、カーリングの銅で有終の美を飾ってくれました。暖かい応援と激励の心から感謝いたします。ありがとうございます。

齋藤泰雄



道

(20)

金光 道晴

活躍する卒業生に御礼とエール

今回は、今年になって大変元気をいただいた二人の卒業生の活躍をご紹介したいと思います。二人とも金光学園の大先輩にあたる方であります。

一人目は齋藤泰雄さんという方です。

ご承知の方も多いと思いますが、この度の韓国、平昌冬季オリンピックの日本選手団の団長として、重責を担われ訪韓されている方であります。この文章は2月の中旬に書いているのですが、一昨日は羽生結弦選手が男子フィギュアスケートで金メダル、昨日は小平奈緒選手がスピードスケート女子500Mで金メダルに輝き、日本中が沸き立っています。私自身も日本選手の活躍に毎日感動し、元気をいただいています。この度の平昌オリンピックでは選手の応援はもちろんです。日本選手団の団長が本校の卒業生なので、いつもとは少し違った気持ちで、なお一層力が入り応援しています。そして競技だけではなく、様々なセレモニーや開閉会式なども含め、テレビや新聞を見ながら、応援しているようなことでもあります。



さて、齋藤泰雄さんは外交官としての道を歩まれた方なの

日本と比べ易しく、数学に関しては留学中には十分勉強することができなかつたということで、帰国後毎日昼休みに先生の所へ質問に来て、ゆっくり食事をすることも出来ないほどで、大変勉強熱心な生徒だったということでした。

現在金光学園は国際化教育、グローバル教育を積極的に進めているところですが、是非近いうちに母校で、改めて齋藤さんの外交官としての体験や、冬季オリンピックのこと、さらに東京オリンピックに向けてのお話等を、生徒達に聞かせていただきたいと思います。

さて、もう一人の卒業生は香西洋樹という天文学者の方であります。これまでも私は何度かお会いし、お話をお聞きしたことはあるのですが、この2月11日に開催された「聖良寛文学賞授賞式」で久しぶりにお会いすることができました。天文学者と文学は結びつきにくいかもしれませんが、実は香西さんは文学にも深い造詣があり、この度は文学賞の受賞者として出席されていたのであります。この「聖良寛文学賞」のことは1年前に「やつなみ27号」に書かせていただきましたので、今回は省略いたしますが、私もこの会には様々な縁があり、今年も出席させていただきました。ご本人の講演をとて興味深く聞かせていただきました。

その中の2つのお話を紹介したいと思います。一つは「星の数と親の数はどちらが多いか？」という話であります。全ての人には二人の両親がおり、その両親にもまた二人の両親がいる。その先祖へさかのぼって数を数えると2→4→8→16→32→64→128→256→512→1024と10代さかのほれば2の10乗で1024となる。2の20乗は100万を超え、2の30乗は10億、2の40乗は1兆、2の50乗は1000兆を超える数に

ですが、今から9年前、ロシア大使の後、フランス大使に就任されることになった時に、本校にお出でいただき、生徒に「外交官の見てきた世界」という演題でお話をして下さいました。お話の内容はもちろんです。私はその時、齋藤さんのお人柄に多くのことを感じさせていただきましたのであります。例えば、当時寄島に住んでおられた90歳を超えたお母様も講演を聞きにおいで下さったのですが、とてもお母様を大切にされていること、そして郷里の寄島や母校の金光学園のこと、友達や先生方をとて大切に思っておられることを強く感じたのであります。現在は、2年後の東京オリンピックを控えてJOC（日本オリンピック委員会）の副会長もなさっておられますが、アスリートとしての経験がない方であらうしやるにもかわらぬ、その大役に就かれており、さらにこの度は日本選手団の団長に選任されたのも、外交官としての経験が高く評価されていることはもちろんですが、何と言ってもそのお人柄というか、人間性にあると思つています。

齋藤さんが金光学園の生徒であった時のことを、二人の恩師の先生から聞かせていただいたことがあります。そのお一人は佐藤先生といわれる女性の音楽の先生ですが、中学生の時に「先生、僕は将来ドイツに行くので、その時は遊びに来て下さい」と言ったのでびっくりし、とても印象に残っていると言われました。外交官としての赴任国はドイツではなかつたのですが、中学生の頃から夢や目標を持ち続け、それを果した方だったと言われるのです。もう一人の先生は、前々校長の加賀先生で、先日電話で当時のことを懐かしく話されました。実は齋藤さんは高校3年の時AFSで1年間アメリカに留学されたのですが、当時アメリカの数学の授業は

なる。たつた50代さかのほつただけでも天文学的数字になる。数が多いことを「星の数ほど」と言うが、まさにこの宇宙にある「星の数と親の数はどちらが多いだろうか」という話であります。人間の場合、どこか一人でも欠けていれば自分存在しない命になり、自分の命は星の数ほどある命のつながりの中にある命であり、その自分の命も子孫につながる命であるのだと言われます。まさに一つ一つの命は、かけがえない尊い、大切な命であるという思いで聞かせていただきました。

また、香西さんはこれまで、星の発見者として、その星に名前をつけておられるのですが、現在まで93個の星に名前を申請し、つけたそうであります。大変ユニークなものばかりで、古い日本の歴史から、古事記、日本書紀、万葉集とか、地名では瀬戸内海、玉島、矢掛、金光、遙照山、人物名では、天武天皇、天智天皇、良寛（玉島の円通寺で修行した江戸時代後期の禅僧）、金光碧水（金光教前教主の号）、佐藤範雄（初代校長）など様々な名前をつけておられます。それらの星の名前を申請するのには一番苦労し、心配されたのは「良寛」と「金光碧水」だそうであります。星の名前には、宗教家と政治家と軍人は没後50年過ぎなければつけれないということ、

「良寛」も「金光碧水」も宗教家としては申請できないので、歌人として申請されたのだそうです。そんなユニークで、身近な名前の星が夜空で輝いていると考えるだけで何かロマンが広がるような気がしてきます。お二人の大先輩の活躍に元気をいただき、その活躍に御礼と熱いエールを送らせていただきたいと思います。

やつなみ保護者会のページ

根をしっかりと張り、太い幹に

高3保護者 福嶋 美穂

金光学園にご縁をいただいた六年前。まだ幼さの残る顔の中に不安と緊張の表情で映る入学式での写真を眺めて今、感慨深い気持ちで心が静かに満たされています。

「光陰矢の如し」、まさに時の流れの早さに慌てつつ、実務的な子育て期間にピリオドを打つこの時期になんとも言えない一抹の寂しさと共に、親として子の成長を間近で見守る事ができ、半分程の肩の荷を無事に降ろせる喜びを感じています。中学ではテニス部、高校ではラグビー部に所属して毎日部活に明け暮れ、汗泥まみれの大量の洗濯物を扱うことは大変でしたが、母として幸せの極みでもありました。

多感な時期に部活動や様々な学生生活を通して苦楽を共に過ごしてきた仲間との繋がりはこの後に続く彼の人生にとって財産になるであろうことは間違いありません。

家の中で育てる観葉植物ではなく、暑い夏でも凍る冬でもどんな厳しい状況下でも持ち堪えることのできる生命力溢れる樹に育てることを目標として、どのご家庭でも大切に育ててこられたことと思います。これから先、無理難題や八方塞がりにつぶかることも当然あるかと思いますが、そういった全てが立派な樹に成長するための必要な肥料と捉え、根をしっかりと張り、揺るぎない太い幹になるよう今後は陰ながら見守り続けます。

最後になりましたが息子をここまで導いていただきました先生方、そして関わっ

てくださった全ての皆様に感謝申し上げますと共に、金光学園の今後益々のご発展を心より祈念いたします。

ご縁に感謝いたします

高3保護者 三宅 亜紀

金光学園に縁をいただいてから六年間、本当に縁に恵まれた幸せな学園生活を送らせていただきました。多くの友人、先生方と出会い、たくさん経験させていただきました。

その中でも部活動に全力投球した娘ですが、中学ではバスケットボール部に所属し日々練習を重ねる中で仲間と切磋琢磨しながら友情を深めました。高校では陸上競技部で全国大会を目標に「練習は嘘をつかない」「継続は力なり」その言葉を信じて頑張ってくれました。たくさん

親にとっても母校

高3保護者 友田 恵子

卒業を前にここ最近よく思い出されることがあります。6年前の中学校入学時、理事長先生が歌われた「ちちははも、こどもとともに、うまれたり、そだたねばならぬ、子もちははも」の言葉です。

この6年間の子ども姿を思い起こしてみると、さまざまな表情が目に見え、楽しく笑っている姿、部活動の試合では険しく真剣な表情であったり。6年間続けた部活動では、本人も憧れる素晴らしい先生と出会い、友人や先輩・後輩にも恵まれ、県内外の他校の先生や生徒の方々と交流を通して今もなお親交を結ぶことができています。この一年間息子が行事ごとに「これが最後か、楽しかった」と嘯みしめながら言った言葉が心に残っています。悩み苦しんだことも含めて、一緒に歩んできた友達と共に過ごした学校生活はキラキラした宝となったのではないかと思っています。

親である私もここまで先生方はもちろんのこと保護者の方々との交わりの中で

自分を見つめ直したり励まされたりしながら過ごしてこれたように思います。卒業を目前にした今、私にもうひとつ母校ができたような感覚にもなります。この6年間のたくさんの経験は、親子共々かけがえない学びとなったことと確信します。そこには校長先生をはじめ先生方それぞれの祈りや願いの中で尊い学園生活を送ることができたことに心より感謝しています。そしてここ金光学園で蒔いて下さった種がいつか芽生え、それぞれの実を結び何十倍にもなることを信じて願います。

言葉ととも

高3保護者 大島 未航子

早いもので、息子が、金光学園へ入学させて頂き6年間という月日が流れました。17センチの身長は172センチに成長し、幼い幼いと思っていた心は、色々な過程を経て成長致しました。

思い返せば、色々なドラマがあったように思います。中学時代の息子は、人間関係につきまざる、部活を辞めたり、ゲームセンターに通ったりということもあり

の試合を経験し、たくさん素敵な仲間に出会い本当に充実した青春を過ごしていたと思います。

また、大学の受験でもたくさん先生方に面接練習をしていただき、万全の状態で自信に満ちた姿は、本当に頼もしい思いでした。いつも支えてくださった先生方に感謝します。

私自身も中学一年の学年委員をさせていただき、その繋がりから「乙女の会」と名前を付けて、やつなみ保護者会だけでなくその後何かにつけて集まっては、高校卒業を迎えるまで仲を深めることが出来ました。

この学年は本当に団結力が強い。そう先生方がおっしゃってくださるように、私たち保護者もたくさんの方と出会い、子どもと共に学び、この学園に育てていただきました。

今はまだここから去りたい思いでいっぱいですが、ご縁をいただいた貴重な金光学園生活に感謝いたします。

本当にありがとうございました。

ました。折々に先生方、お友だち、お友だちのご両親が、息子に温かい手を差し伸べて下さりました。そして、どんな息子に對しても、ありのままを受け止めてくださり、成長を待ってくださり、成長したら、また認めて褒めてくださる。金光学園では、失敗が許され、成長を認めてもらえる、心温まる環境がありました。中学時代にその温かさで見守って頂いたおかげで、息子は、紆余曲折はありましたが、野球部員として高校三年間を送ることができました。

同時に私も親として成長する機会を頂いたと感謝の思いでいっぱいです。よく子どもの成長には、子どもと親と学校のチームワークが大切であると、言われます。我が家の場合は、学園の先生方、金光教の教えが、私たち親子を育ててくださり、私は親にして頂き、息子は、高校生として自立の一步が歩めるところまでに成長させて頂いたと思います。

そして、何より息子が私を母として選んで生まれて来てくれたこと、金光学園を学びの場として希望してご縁を頂いたことに深く深く感謝致します。おかげさ

まで、私は、青春時代のような友情が築け、思い出が生まれました。この六年間に頂いたご縁に深く感謝しています。旅立つ息子の応援団長として私は、いつまでもいつまでも応援旗を振り続けたと思います。合言葉とともに。人をたいせつに、自分をたいせつに物をたいせつに

教養部編集後記

高2保護者 田所 洋子

早いもので、年度末の3月になってしまいました。

今年度は初の評議員。息子と私、金光学園にお世話になるのも残すところ2年となり、少しでもお役に立てればと思ひ引き受けました。

教養部でのお仕事はとても楽しいものでした。優秀な部長を筆頭に楽しい部員達が盛り上げ、先生方や三役の方にフォローしていただくといった、いい形で一年間過ごせたと思います。

役員はほつま祭に向けて一丸となつて準備をしていくわけですが、三役の方の頑張りは大変なもので、それを直に感じ

ることが、私たちの活力にもなるといった、いい連鎖を感じました。

教養部の主な仕事は研修旅行のプランの提案、「やつなみ」の「保護者会のページ」の原稿依頼。研修旅行は大塚国際美術館をメインに美味しいイタリアンを食す素晴らしいものでした。プランを形にしてくださいました皆様、旅行に参加してくださいました皆様、いろいろなテーマで執筆していただいた皆様、本当にありがとうございました。

一年間、いろいろな方に助けていただき終えることができました。金光学園には優しくて素晴らしい保護者の方がたくさんいらつしやるということを実感し、一歩踏み出すことで成長できた一年間だったと思います。

本当にありがとうございました。そして、卒業おめでとうございます。



メタセコイア

長瀬清子賞

— 中学2年の佐藤弘汰くんと仁科日向くんが第15回永瀬清子賞において、それぞれ佳作を受賞しました。おめでとうございます。



JUSC 高校生科学技術チャレンジ 文部科学大臣賞

高校2年の上川混汰くんが「多点観測によるペルセウス座流星群の研究」で最高賞である文部科学大臣賞を受賞しました。上川くんは5月に米国で開催される「国際学生科学技術フェア」への日本代表としての出場も決まっています。おめでとうございます。(写真は岡山県知事を表敬訪問したときのものです)



中国学園大学主催 高校生プレゼンテーション・コンテスト 最優秀賞

高校2年の岡本圭織さんの「子どもの貧困」が日本語の部で、高校1年の田中茉莉子さんの「Important things to being a global person」が英語の部で、それぞれ最優秀賞を受賞しました。おめでとうございます。



活躍おめでとう

《中学バレーボール部》

ジュニアオリンピックカップ [JOC]
全国都道府県対抗中学生バレーボール大会に出場して

中3 宮本 直幸

僕は12月25日から大阪で行われた全国都道府県対抗中学生バレーボール大会に出場しました。この日のために、選考会においてチームメイトと共に岡山県選抜に選ばれるために切磋琢磨し、精一杯の力を出し切りました。その結果、僕は岡山県選抜に選ばれました。僕は選ばれなかった人たちと共に汗を流したあの日の事は、忘れずに頑張ろうと心に誓いました。9月からの4ヶ月間、先輩達の残した栄光に近づけるように、選ばれた仲間と共に練習をしました。大会では多くの保護者、金光教の方々、学園から来てくれた後輩たちの応援を背に、最高の力を出し切る事が出来ました。結果、全国準

優勝になることが出来ました。もうすぐ高校生になりますが、この選抜チームの皆は、別々の高校に進学し、お互いにライバルとなりますが、今度は金光学園の良きチームメイトと共に頑張り、精進しようと思います。最後に、応援して頂いた多くの保護者、先生方、そして、岡山の人々に感謝したいです。ありがとうございます。

中3 中山 航汰

僕は12月25日から大阪府で行われた全国都道府県対抗中学生バレーボール大会に出場しました。学園からは宮本君と森下君と僕の3人が選ばれ、共に全国優勝を目標に日々練習に汗を流し頑張りました。他校から選ばれた選手とも、週4日の練習を通して打ち解け合い、次第にチームが一つになっていきました。大会では学園の後輩や、岡山県チームを応援してくれた方々の声援を受けて、今まで

の練習の成果を出し切ることができました。結果は目標にあと一步届きませんでした。岡山県の最高成績である準優勝という結果で僕にとっては最高の素晴らしい経験になりました。もうすぐ高校生になりますが、今度は金光学園バレーボール部の仲間と共に全国大会優勝を目指して、日々の練習に精進していきます。最後に岡山県選抜チームを応援し、支えてくださった先生方や保護者、関係してくださった多くの皆様に感謝いたします。ありがとうございます。

中3 森下 宙

僕は12月25日から大阪で行われた全国都道府県対抗中学生バレーボール大会に出場しました。この日のために、今までライバルだった者達と共に汗を流し、昨年の先輩たちの残した記録に少しでも近づけるように、努力しました。練習を積んでいく中で、別々の中学校で育ち、学

んできたにも関わらず、いつの間にか一つのチームとしてまとまり、協調性のある最高のチームが出来上がりました。大会では、多くの保護者、他校の生徒の方々、学園から来てくれた中学の後輩たちの応援のおかげで、昨年の先輩の記録を超え、準優勝という結果になりました。この選抜チームで得たことをこれからの高校生活で活かしていこうと思います。最後に、応援して頂いた多くの保護者、先生方、本当にありがとうございます。今後ともよろしく願います。

全国長身選手発掘育成合宿に参加して

中2 櫛間 大輔

僕は2月9日から2月12日までの4日間、「味の素ナショナルトレーニングセンター」で行われた全国長身選手発掘育成合宿に参加しました。この合宿に参加して、全国各地のいろいろな先生方から、競技面はもちろん、人間性を養うことが一番大切だという事を学びました。その中で一番印象に残っている言葉は「人間力なくして競技力向上なし」です。この言葉は、あたりまえの事をあたりまえにできない人は、競技力は向上しないと

う意味です。僕はこの合宿で学んだ事を、日々の生活でも生かし、諸先輩方のようにバレーボールの一線で活躍できるように、高い目標をもって日々練習に励みたいと思います。また、ここまで育ててくれた両親、たくさんのお話を教えて下さった先生や先輩方、そして、快く送り出してくれた仲間への感謝の気持ちを忘れずに、これからもバレーボールに精進していきたいと思っています。

第14回中国中学バレーボール新人大会に出場してみて

中2 矢田 大貴

僕は、2月11日から広島県みよし公園カルチャーセンターで行われた第14回中国中学バレーボール新人大会に岡山県代表として出場しました。1日目に行われた予選リーグ戦では、1戦目から山口県1位代表の強豪、高川学園中学校と当たりました。1セット取ったもののセットカウント1-2で負けてしまいました。その後は広島県3位代表の向陽中学校に2-0のストレートで勝ち、予選リーグ戦を突破することができました。負ければ終わりの2日目。決勝トーナメントの

準々決勝では、広島県2位代表の城南中学校と当たりましたが、勝てばベスト4が決まる試合でしたが、ストレートで負けてしまい、結果ベスト8となりました。もしも勝っていたら、次は予選で負けた高川学園と再戦のチャンスもあったのに、あと一步届かず残念な結果に終わってしまいました。この悔しさを胸に、応援してください。この悔しさを胸に、応援してください。この悔しさを胸に、応援してください。



中目指して練習に励みますので、応援よろしく願います。ありがとうございます。

中1 三好 大祈

今回の大会は、中国大会という岡山県を代表して出場する大会でした。大会当日まで、先輩・同級生は丸となって練習に取り組んできました。結果は、予選リーグの一試合目は高川学園に2-1で負け、二試合目の向陽には2-0のストリートで勝利して、決勝トーナメントに進出しました。決勝トーナメントの結果は、城南に2-0で負け、ベスト8になりました。大会前にインフルエンザで1年が学年全体部活停止となり、思うように練習が出来ず、チームに迷惑をかけてしまった事など、言い訳を探せばいくつもあります。しかし、自分自身の反省点は緊張のあまり、試合中に大きな声を出すことが出来なかったことや、ボールをよく見てプレーが出来ていなかった事など、練習の時には出来ていたことが思うように出来ず、体も動かなかった所です。以上の事を踏まえ、次の県大会・中国大会に向けて、日々精進していきたいと思っ

ています。当日は大変な風雪にも関わらず、沢山の方に声援をいただいたことに大変感謝しています。ありがとうございます。これからも、金光学園の名前を背負っている事に誇りを持って、頑張っていきたいと思えます。応援よろしく願います。

平成29年度 会長表彰を受けて

中3 上田 颯大

僕は、中体連会長表彰を受賞できてとても嬉しく思います。また、中学3年間で積み重ねて、得てきたものがこの賞に詰まっていることを実感しています。それは、一生懸命に挑んだ放課後の練習や遠征、合宿。勝つ喜びと負ける悔しさを知った数々の試合。バレーボールを通して出会えた多くの友達。金光学園バレー部の一員としてたくさん



のことを学んだ毎日。挫けそうな時もありましたが、支え合った友達との日々。これらが僕を今日まで成長させてくれました。でも、僕はまだまだあらゆる面において未熟だと思っています。だからこそ、僕はこの賞を僕一人の力ではなく、チームみんなの、僕を支えてくれた人達みんなの力でいただくことが出来たと考えています。これからも全国大会出場を目標に一人前のプレイヤーを目指し、努力していきたいと思えますので、今後ともご声援よろしく願います。本当に、ありがとうございます。

平成29年度 部長表彰を受けて

中3 中山 航汰

この度、部長表彰をいただくことを嬉しく思います。思えば、金光学園に入學して3年間、辛いことも嬉しいことも本当に沢山ありました。入学当初はアタッカーとして、1年生の秋からはセッターとして、練習に励みました。金光学園生である自覚や支えてくださる多くの方々への感謝の気持ちなど、色々なことを学び、感じて来ました。また、個人としては岡山県選抜に選ばれ、セッターをさせ

ていただきました。今までのバレー人生のなかで大変充実した3年間でした。先輩や後輩、仲間あつての部活動であることとを実感し、今この部長表彰を頂くことで、益々これからも仲間と共に頑張ろうという気持ちが出てきました。高校でも中学3年間で学んできたことを十分に発揮して、全国大会に出場したいです。

難しい目標ですが、より一層努力していきます。これからも応援のほど、よろしく願います。

中3 渡邊 空

この賞を受けられたのは、日々応援してくれた家族や友達、そして、苦しい練習を友に乗り越えて来た仲間、指導してくださった先生方のおかげです。ご支援して下さった皆がいなければこの賞をいただけることはなかったと思います。バレーボールを始めて5年。今思うと長かったようで「あっ」という間の5年間でした。バレーボールをやりたくて金光学園に入學し、初めて持った中学校ボールの重さを今でもしっかりと覚えています。小学生の頃からアタッカーとして自信があり、中学でもアタッカーに選ばれ、

嬉しかった思いを今でも忘れていません。高いネットに慣れず、なかなか上手く打てないことに、苛立ち、とても悔しい思いをしていました。目標は高く、全国大会です。毎日毎日、厳しい練習に励みました。残念ながら中国大会で敗れてしまいました。あの時の練習が無ければ今回の部長表彰はなかったと思います。

しかし、今回の受賞で満足するのではなく、更なるステージを目指し、厳しい練習に励みたいです。最後に、この賞を受けて支えてくれた多くの方々に本当に感謝しています。これからも皆様に支えられながら精進していきたいと思えます。ありがとうございます。

《高校ラグビー部》

中国5県対抗戦に出場して

高1 原田 将樹

僕は10月16、17日に岡山県で行われたU16中国5県ラグビー対抗戦に岡山県代表として出場しました。試合は4試合あつて3試合に出場しました。結果は1勝3敗と満足いく結果ではなかったけど、強豪校がいる島根や広島などと出来てとて



もいい経験になって課題も沢山見つかりましたし、逆に自信が持てるプレーができてきたりしてよかったです。まだまだ自分のレベルの低さに気づかされたのもっと練習して課題を一つ一つクリアして強くなりたいです。自分の力をもっと通用するようにプレーを磨いていきたいです。

次はU17や少数校の試合があるのでそこで出た課題をクリアし、自信の持てるプレーをして、満足のいく結果を出したいです。そして、もっと上のレベルで試合がしたいので日々の練習を頑張りたいと思います。

《高校卓球部》

第45回全国高校選抜卓球大会中国地区予選会に出場して

高2 神原 大空

僕たちは、2月2日から鳥根県出雲市のカミアリーナで行われた全国高校選抜卓球大会中国地区予選会に出場しました。僕たちにとっては新チームになってから初めての中国大会でしたが、個人個人が自分の力を出しきることが出来たと思



います。残念ながら予選リーグ敗退となりましたが、普段の試合では感じることでできない緊張感であったり、強い選手から刺激を受けたりと改めて感じることも多くありました。

この経験を生かし、次の中国大会にも出場できるように日々の練習を大切にしていきたいと思います。

《書道部》

好きな書を工夫して書く

高2 塚本 瑠菜

今年度行われた第54回創玄全国書道大会で書道部は学年優秀賞（高2坂口小枝）、大会委員長賞（中2赤沢梨吏）、奨励賞（高2塚本瑠菜、高1小寺彩巴）をそれぞれ受賞しました。また私たちだけではなく、書道部の後輩たちもそれぞれ結果を残しました。

私たち書道部は中国や日本の古典を臨書し、日々技術の上達を目指し、努力しています。自分が克服したい書体や自分の好きな古典を練習しています。

今まで私は臨書作品の中で完成度の高いものを先生と相談しながら優先的に出

動の機会も減ってしまうと思います。ですが、今年私が経験した「自分の好きな書を見つけ、工夫することで受賞にいたる」、その喜びを後輩たちにも感じてほしいと思います。

《トランポリン》

中国地区

トランポリンシャトル競技大会 優勝

ツムラ杯

トランポリン競技選手権大会 3位

都道府県対抗

トランポリン競技選手権大会 出場

中1 守分 梨子

私は、小学4年生から競技者コースで週3回練習に励んでいます。5月中国地



区シャトル大会で優勝することができました。10月には、ツムラ杯（中四国）一般Aクラス女子で3位を獲得することができました。2月には、3度目の都道府県大会に出場します。トランポリンの魅力は2階建て以上の高さまで跳べることが楽しく、県外の人とも友達になれたり、オリンピック選手に会えたりすることです。少しでも油断すると大けがをしますので、緊張感をもって跳んでいます。将来全国大会でメダルが取れるようにこれからも頑張ります。

《中学スポーツエアロビック》

SUZUKI JAPAN CUP 2017

エアロビック全国大会出場

中3 中谷 祈粹

11月4日に、SUZUKI JAPAN CUP エアロビック全国大会にトリオで出場しました。予選を通過することはできませんでしたが、4位だったので「このままでは全国では表彰台にのぼれない」と思い、3人で表彰台を目指して、練習を頑張りました。本番ではすこく緊張しましたが、楽しんで演技することができ、3位にな



ることができました。指導して下さったコーチ、そして支えてくれた家族や友達に感謝して、今後の大会でも表彰台にのぼれるように頑張っていきたいです。

《アジアペタンク》

アジアペタンク選手権大会 ベスト8

中1 木下 幸喜

今回の試合は、3年連続、3度目の出場でした。過去2年の大会では、僕たち日本チームは1勝もできませんでした。今回の試合ではシングポール戦で勝利することができ、予選通過することができました。しかし、初戦で負けてしまいメダルを取ることができず、悔しかったです。来年も国際大会に出場し、メダルを日本に持って帰ることを目標に頑張りたいと思います。



品していました。昨年の大会も同じで授業などで取り扱った臨書で良い物を出品しました。しかし、今年は好きな書体を探し、書きたいものを書くという練習をしてきました。今大会では約1年間練習してきた書きたい書体を出品することができました。字の伸びや余白の取り方など今までと違った視点が手に入り、そして良い賞を受賞できたことは感無量でした。

この大会をもって高3になるので部活

中2学年集会 2月15日(木)

沖繩修学旅行事前学習発表会

「ゆいま〜る沖繩」

大切なこと二つ！

1組 原田 珠希

私は沖繩について本を読み、資料を見て、いろんなことを学んでいた。ハッキリ言って人より知っているつもりだった。けど、この学年集会は私にさらに大切なことを教えてくれた。

私たち1組は、沖繩の自然・地理について調べた。私たち3班のテーマ「やんばるの森」なんて聞いたこともなかったのでもなかつたので何じゃそりゃと思つた。ねむい目をこすりながらネットで検索し、作ったパワーポイントはとてもいいものに



なった。1組はみんな仲がいい。でも、それだけじゃなかつた。みんなでいいものを作ろうと頑張ることはとても楽しかった。これが学年集会が教えてくれた大切なことの一つ目だ。

沖繩はいろいろなものがある。有名で笑いの絶えない明るいイメージがある。でも70年前、暗い沖繩戦もあった。今回の学年集会で発表されたことは、知っていることも多かつた。でも知らないこともあつた。発表を聞き終えたとき私の沖繩への思いは2倍も3倍も強くなつた。そんなものがあるの!? 行つて、見てみたい! 食べてみたい! という期待と、絶対に戦争を繰り返さないという決意、そして、少しでも被害が少なくなつてほしいという基地問題への願い。私たちはもつと沖繩について知らなければならぬ。これが大切なことの一つ目だ。

この二つの大切なことを気づかせてくれた学年集会に本当に感謝している。いろいろと考えてくれた実行委員、支えてくれた先生、あと私たちみんな! おつかれさま! そして本当にありがとう。修学旅行が楽しみです。

実行委員長として

2組 神原 由佳理

私は今日の学年集会を終えて、本当にこの学年の団結力はすごいんだなと改めて思いました。2組と4組は学級閉鎖になり、他のクラスもインフルエンザで欠席する人が多く、思うような練習が十分できない中、どのクラスもしっかりと調べていたし、歌や劇もとてもおもしろかつたのでとてもよかつたと思つた。

私は学年集会の実行委員長として頑張りました。初めて舞台の裏を見ることができて、とてもいい経験になりました。実際、発表する人たちも大変だつたとは思いますが、舞台の見えないところで照明さんが電気をつけてくれ、音響さんが音楽を流してくれるからこそ、すばらしい発表ができたんだと思つた。意見をまとめるのが苦手で実行委員長になつ

たときは不安でしたが、みんなが協力してくれたおかげで責任ある役割を果たすことができました。

戦争を主に、今までたくさん沖繩のことを勉強しました。72年前のあの戦争のことは決して忘れてはならない。そう思いました。罪のない人々が次々に亡くなつたと思うと、胸がしめつけられるような思いがします。人間にはみんな幸せな生活を送る権利があると私は思います。だから今、平和すぎるぐらい平和な日本を私たちが守っていかなければならないと改めて強く思いました。

学年集会で色々な体験ができ、友達との絆も深まったので本当に良かったです。つぎは実際に沖繩に行けるのでとても楽しみです。

沖繩の「明」と「暗」

3組 綱川 滉大

2月15日に学年集会がありました。僕はその中でもいくつか印象に残っていることがあります。

一つ目は、5組の発表中に電源が落ちたというアクシデントが起つたことです。そういうアクシデントに出会っ

たことは、あまりなかつたので、とてもびっくりしました。また、学校行事の中で予想外の事態が起つたということ、とてもいい学習になつたと思つた。二つ目は、どのクラスも楽しく調べたことを伝えていたことです。3組はテーマが少し暗い内容だつたので、あまり明るくすることはできませんでした。しかし、他のクラスはテーマの内容を面白く、楽しく伝えられていて、とても良かったです。中には劇とパワーポイントを同時進行したりするクラスもあり、とても印象に残るものでした。

今回3組は「沖繩と第二次世界大戦」というテーマで調べ学習をしました。これは沖繩の「暗」の部分ですが、他のクラスは沖繩の「明」の部分の調べ学習をしていて、沖繩の「明」と「暗」の部分を両方同時に知ることができて、とても良い集会になつたと思います。この集会を



したことで、僕の心の中の沖繩は、明るいというイメージに暗い要素も加わり、また違ったイメージになりました。



沖繩修学旅行のときは、この学年集会や沖繩事前学習で学んだことを生かして、自分たちで調べた場所を自分の目で見たいと思つた。

沖繩の過去も未来も

4組 山口 祐紀

中学3年生の沖繩修学旅行に向けての事前学習の一つである、学年集会は学年の絆がより深まるものとなりました。

まず、初めに行われた、トーンチャイムの演奏と群読にとってもびっくりしました。募集をしていたのはつい最近だったにもかかわらず、一人ひとりが堂々としていてすごいなと思つた。鳴っている音、読まれている詩、どちらもすつと

中に引き込まれました、きっと一人一人が心を込めていたからだと思います。次に行われたのはクラスの出し物です。私たちのクラスは練習を何度もし、ダンスもみんな覚えてきました。だから本番も練習のようにでき、よかったです。ほかのクラスもパワーポイントがスライド一枚一枚まわってわたりやすく歌もクラス全体が一つとなっていてとてもすごいなと思いました。沖繩の歴史以外あまり知りませんが、ほかのクラスの発表を聞いてたくさんを知ることができました。最後に行われたのは全体合唱です。前から音楽で練習していた曲で全体で合わせた時、学年全体が一つになってるんだと感じられました。

読まれていた詩、各クラスのパワーポイント、歌った曲の歌詞、全部で沖繩は影の部分と光の部分を持っていることを改めて



知りました。伝統のある沖繩も戦争という過去を持っているということ、それでも前へ進んでいる現在があるということ、このようなことを沖繩修学旅行へ行った時自分自身で感じられたらいいなと思います。

学んだことを忘れずに

5組 中山 愛梨

トーンチャイムの音が鳴り響き、学年集会は始まった。

私はこの学年集会でもちろん平和の大切さもわかったが、それだけではなく、沖繩での戦争のことや、古くから続いている伝統や、歴史も知ることができた。

私たち五組のテーマは「沖繩の基地問題」だった。私たちは一人一人、調べたことを分けた。米軍基地の現状や軍事演習の様子などだ。学年集会に向けていい発表ができるようにみんなで協力した。調べてみて、米軍基地があることによって日本は守られているが、一方、困っている人たちもいるということが分かった。

学年集会当日。沖繩で修学旅行生を中心にバスガイドを行っている崎原さんのバスガイドしている様子を見て驚いた。

それは修学旅行生に沖繩についてとても分かりやすく工夫していたことだ。私が小学生の時に行った修学旅行のバスガイドさんとは比べ物にならないくらいだった。



DVDで一番印象に残ったのは、崎原さんが「先生」と呼んでいたおばあさんの言葉だ。「戦争の時に産んでしまっでごめんね。」その言葉を聞いた瞬間、涙が出てきた。この時代に生まれた人たちはとてもかわいそうだと思った。この時代に生まれたくて生まれてきたわけではないのに大変な思いをしないとけないのは耐えられないと思った。

学年集会を終えて思ったことは、沖繩には楽しいこともたくさんあるけれど、過去にはこのような悲しいこともあったということだ。今日のことでも忘れずに修学旅行に行きたい。

中1学年集会 2月16日(金)

1年間の集大成

HAPPY

協力と涙の1年

1年を通しての成長

1組 楠間 永梨

今日は学年集会がありました。各クラス出し物をするということで、それぞれが個性豊かなものを作り上げていました。はじめは1組。少し緊張したけれど、大きな声で自分の夢を言いました。トップバッターでの発表は、みんないろんな思いがあったと思うけど、成功させるために一生懸命取り組んでいました。それだけでも大成功といえると思います。

そして、全クラスの発表が終わりました。次は合唱です。この1ヵ月



間してきたことをすべて出し切るつもりで歌いました。もちろん全員がそんな思いだと思います。だからこそあんな美声が出せたのだと思います。私はあいく人の後ろに隠れてしまいました。倍の声を出し、後ろまで届くぐらいの勢いで歌いました。

そして、集会がおわり、私は思ったことがあります。それは、今回の発表はみんなの1年を通しての成長した成果だということです。入学時の時はまだ名前も分からなかったような人たちと、今こうして団結し、すばらしいものを作り上げていることは、本当にすごいことだと思います。



私にとって、この集会は1年のしめくくりとなる良いものとなりました。クラス替えをして新しいクラスになってもまたそこで協力しあっていると思います。

最高の発表

2組 根本 蓮

この日までみんなで準備をし、練習を重ねてきた。なにをするかクラスで考え、感動させるといふ目標を持ち、取り組んだ。

最初はまだあまりやる気が出なかった。でも、やる事が決まってくるとみんなの気持ちが伝わってきた。「ありがとう」という言葉を伝えるために。

ほくは、いろいろな人に支えられ、助けられながら過ごしてきた。いつもは恥ずかしくて言えない言葉を言うチャンスが来たと思った。だから、紙を書く字から気持ちをこめて書いた。お父さん、お母さんはほくに大事なことを伝えて気づかせてくれた。それを伝えようとした。

発表の時は来ると、緊張してきた。クラスで考えた歌と一人一人の「ありがとう」の思い。それを、気持ちをこめてお父さん、お母さんに伝えた。最高の発表だった。二人に教わった大事なことを、これからの中学校生活を送るにあたり、胸に刻んでおこうと思った。

「ありがとう」を伝えられた

3組 大島 聖也

私が学年集会を通して、一番思ったことは一年ってとても早いなということだ。入学してから、もう一年。入校時合

宿や体育会やほつま祭。初めてのことばかりでした。行事の中で意見が合わないこともあったけれど、自分たちで協力し、最後までやりきろうという強い意志が生まれました。

そのようなことを3組はこの学年集会で振り返ってみることで、自分たちは行事があることに成長していったんだなということが分かりました。これは友だちや先生のおかげでもありますが、親のおかげでもあります。弁当を作ってくれたり、体操服を洗ってくれたりというかけの支えがあるからです。その親に向けて全クラス「ありがとう」という気持ちを学年集会で伝えられたと思います。来年からは二年生。先輩になり、やっていくことも増え忙しくなると思いますが、自分は先輩だという自覚をもってこれから頑張っていこうと思います。

大切な仲間と共に

4組 遠藤 万結香

1年4組での最後の行事。この1年間4組で過ごしてきた、とても楽しかった。



日々の授業、様々な行事、いつもの休み時間、すべてが充実して最高の1年間だった。こう思えるのは、4組のみんなが協力したからだと思う。そんな4組で1つのものを作り上げるのが最後だと思うと悲しかったが、同時に頑張ろうと思った。

自分が残れる日には作業をした。友達と一緒に作業をしてとても楽しかった。どんどんと本番が近づいてきて焦ったが自分の作業を頑張った。そして本番、1組と3組の発表が終わって「4組は大丈夫かな。」と心配になったが、なんとかやりきった。少し他の組よりハプニングが多かったと思うが、4組らしさを全部出しきったと思う。残り1か月、この4組の大切な仲間たちと共に充実した日々を過ごしたいと思った。

5組だったからできたこと

5組 福嶋 一郎

ダイナミック琉球から始まった5組の出し物。小さな恋の歌、ポッキーダンス、流星(ランニングマン)、キセキ。このすべての歌やダンスが終わったときは、す

ごく楽しく、嬉しかったです。成功できたのも実行委員のみんながいたからだと思います。

実行委員を中心にはじまった練習。最初は何をするのか、どんな風にするのか、あまり決まらずもめる時がありました。でも実行委員の人がしつかり声を出し、まとめてくれて乗り越えることができました。そこから放課後の少しの時間も無駄にせず、みんなと練習しました。練習をすることで少しずつ上達することができました。そして本番の時も、練習したことがすべてを出してやろうと頑張ることができました。特にキセキではこの5組のみんなと出会ってここまで一緒に過ごせていることはすくキセキなんだということが感じることができました。



探究 授業報告

探究(中3)

○ディベート

3学期は論理的思考力、批判的思考力、さらに伝える力を伸ばす目的でディベート大会を行いました。各グループで肯定側、否定側の論点を共有して事前調査し、グループ大会に臨みました。予選のテーマは「動物園の動物は幸せであるか」「18歳以上の国民に選挙権を認めるべきか」「日本は救急車の利用を有料化にすべきか」、決勝のテーマは「消費税10%への増税は是非か」でした。社会問題について考えるよいきっかけになりました。

探究Ⅰ(高1)

○ゼミ活動

2学期から継続して文系3ゼミ(人文、教育、グローバル)、理系5ゼミ(数学、物理、化学、生物、天文)に分かれて、文献検索、調査、実験を進めました。2月の中間発表会では大学などの先生をお招きして、発表報告し、その後の研究

の方向性について助言をいただきました。

探究Ⅱ(高2)

○ゼミ活動

これまでに取り組んできた研究のまとめとして、英文アブストラクトにも挑戦した研究論文を完成させ、論文集として発行することができました。

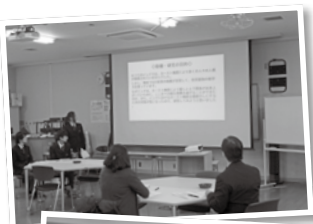
3月10日に本校で実施した探究活動成果発表会では、文系ゼミはスライド発表、理系ゼミはポスター発表を行いました。英語発表に挑戦したテーマも11本ありました。各分野の専門の先生方や海外の留学生に助言者として参加していただきました。

受賞等

○各種発表会への参加

12月9日に神戸国際展示場で開催された「生命科学系学会合同年次大会」に生物ゼミの有和珠希さん、白石麻衣さんが参加しました。

「JSEC高校生科学技術チャレンジ」に応募した「多点観測によるベルセウス座流星群の研究」(天文ゼミ)・上川凜太君が全国30テーマに選抜され、12月9・10



日に日本科学未来館で開催された最終審査に出場し、最高賞である文部科学大臣賞を受賞しました。5月に米国である「国際学生科学技術フェア」へ日本代表としての出場も決まりました。

12月16日に中国学園大学で開催された「第4回高校生プレゼンテーション・コンテスト」に現代社会ゼミに岡本圭織さん、黒川莉沙さん、三宅ひかりさんが参加し、「子どもの貧困(岡本圭織さん)」が最優秀賞受賞を受賞しました。

1月21日に岡山大学で開催された「集まれ!科学への挑戦者」に化学ゼミの塚本瑠菜さん、渡邊七海さんと生物ゼミの有和珠希さん、白石麻衣さんが参加しました。

「ひとり」旅行クラブ

天野 浩美

旅が好きだ。

近場へのお出かけでも、遠くへの旅行でも、なんだか旅って好きだ。

小さい頃からよく家族旅行に連れていってもらっていたからというわけではない。むしろ、私の母は出不精で、家族旅行の記憶は一度くらいしかない。

じゃあ、なぜ私はそんなに旅に駆り立てられているのか。そんなことを考えていた時、ふと思いついたのが「紙上旅行クラブ」のことだ。

小学校5年生の頃だっただろうか。クラブ活動を何にしようかと友達と相談していた時、目に止まった「紙上旅行クラブ」という文字。紙上旅行?? なんだそれ?? よくわからないけど「旅行」という言葉が妙にワクワク感を誘ってきて、「これにしよう」と友達と即決。どんなに楽しいことが待っているのか期待

は膨らんだ。

そしてクラブ初日。クラブの顧問と思われるおじいちゃん先生がおもむろに持ち出したのは「時刻表」という分厚い冊子。なんだこれ?? として、おじいちゃん顧問から聞かされたクラブ活動のミッションは、①自分が行きたい場所を決める。②そこへ行き方(交通機関と時刻)を調べる。以上。何て地味!! まさに、紙の上だけで旅行に行った気になるクラブ、いわば妄想旅行クラブだったのだ。

それから毎週クラブ活動の日、従順な私たちは、地図と「紙上旅行クラブ」のバインブル(?)「時刻表」を手に、行ったこともない全国各地の名所を思い浮かべつつ、新幹線やら特急列車やらを「紙上で」乗り換え、行った気分を味わったような、味わってないような……今思えば、一年間ひらすら「どこに行こうか」「どうやっ

のように。

どこに行く? どこのホテルに泊まる? 何をやる? 何を食べる? 私の計画は何カ月にも及ぶ。愛読書は「るるぶ」と「まっぷる」。行く予定がなくても旅行雑誌を読んでいるだけで幸せになれる、なんてお得な趣味だろう。今回の旅は「○○の旅」みたいに旅のテーマを決めて計画するのも楽しい。子どもができてからの家族旅行では、子どもをいかに楽しませるかも新たなテーマに加わった。最近では島をサイクリング、ウミガメに会いに行くシユノーケル、カヌーで川下り、いろんなくだもの狩りなどなどアクティブな旅が多い。家族が楽しんでいる姿がまた次の旅へのモチベーションにつながる。

何日間かにわたる旅行では「旅のしおり」も作成する。しおりを作ろうと思ったら、分刻みのスケジューリングのため、地図を確認しながら移動時間を計算したり、観光地の効率良い回り方を



研究したり、と一段と力が入る。最近そんな私の姿を見た家族は「あー、また旅行の計画立ててんの? 飽きないね」と半ば呆れた雰囲気を出している。が、旅行中に「さすが! すこりサーチカ!」と褒められれば、「元紙上旅行クラブですから!」と、よくわからないプライドをくすぐられたりする。

情報化社会の恩恵を受け、インターネットを使えば旅に関する情報があふれるほど手に入るようになった。以前は、いろんなパンフレットや本を片手に、付箋を貼ったり、ノートにメモしたりして検討を重ねた。旅行中も、地図を見ながらあつちに行つて、こつちに行つて、と方向音痴の私は必死でナビゲーションしていた。けれど、今ではインターネットで調べれば、宿泊先一つとっても、満足度が点数で、ランキングで、さらに利用者の詳細な口コミまで簡単に知ることが出来る。食事をずるお店にしても、場所と料

て行こうか」とよく妄想し続けたものだ、と我ながら感心する。

しかし、この「紙上旅行クラブ」の影響なのかどうなのか、今では「趣味は?」と聞かれればたいてい「旅行」と答える。もっと厳密に言



えば、「旅行の計画」が趣味と言った方が正しいかもしれない。もちろん、旅先でその土地の美味しいお料理をいただいたり、温泉でまったりしたり……そういうのも旅の醍醐味なのだが、旅が楽しければ楽しいほど、切なさのようなものを感じてしまう。あー、もう旅が終わってしまうんだなあ、と。だから、私のテンションマックスは旅行中よりも、むしろ旅行前にあれこれ旅行の計画をしている時なのだと思う。そう、あの「紙上旅行クラブ」で過ごした時間

理のジャンルなど組み合わせれば、最適のお店を検索してくれる。そして、地図アプリを使えば目的の地までの最短ルートを教えてくれ、ナビゲートしてくれる。ご丁寧に渋滞情報まで教えてくれる。おかげで、宿泊するホテル、食事をする店何においても失敗することはなくなった。私の旅行計画は完璧に近いものになった……かな。

でも、本当は「あの時のあの店、めっちゃまよったなあ」とか「あの時道が分からなくて迷子になって困ったよなあ」とか、行き当たりばったりで失敗したとしても、そういうのが忘れられない旅の思い出になったりするものだ。便利になったようで、いろんな楽しみを失ってしまったているのかもしれない。これからの時代は、AIが私好みの旅プランを計画し、あらゆる予約も済ませてくれて、あとは旅行に行くだけ、もしかしたら、旅行に行く必要すらなくなる(ヴァーチャル旅行?)日が来るのかもしれない。そうになったら、私の楽しみもなくなってしまうんだろう。なんて思いを巡らせつつ、今日も次の旅に備え、旅行雑誌とにらめっこしながら妄想を膨らませている私だった。

AFLの留学生紹介

私の日本留学

フランス
マブソン・オロル(ロ)

もうすぐ留学が終わります。日本で、もう10か月が過ぎてしまいました。まるでウソのようです。まだ信じられません。3年前まで、いつか日本に住むということを全然考えられませんでした。そのころ、留学したいと思っていたけれど、英語を話す国に行こうかと考えていました。しかし、その時、タイミングが悪くて留学出来ませんでした。そしてその後、日本に2回ほど旅行で来ました。日本に住んでいる叔父さんの家に1週間泊まりました。叔父さんの奥さんと娘は日本人なので、本当の日本人の生活を少し経験出来ました。その時、「日本についてもっと学びたい！」と思いました。それで今は、もうすでに日本にいる最後の1か月です。日本に行こうと決めたのは、生まれて初めて自分で大きな選択をしたのです。ですから、この留学は私にとって大きな意味を持つのです。日本に来るまでは、

ずっと同じ場所に住んでいました。家族と友達はずっと近くにいました。とても遠い所に住みに行くことは私にとって、大変な新しい経験でした。この留学を、ずいぶん楽しみにしていました。

たくさん新しいことを学びたかったです。日本に来る前に、自分で少し日本語を勉強しました。(ひらがなとかカタカナを覚えて、単語も少し知っていました)しかし、日本に着いた時、日本語が全然分からなくてびっくりしました。私はあまかったです。何も分からなかったし、短い文を作ることも出来ませんでした。最初の1か月の間、とても寂しくて、くやしかったのです。

フランスと比べて、日本は全然違います。フランスには家族や友達がいるし、自分の習慣もあるし、皆の言葉が完全に分かっているからで、楽に話せます。日本に来たら新しい習慣に慣れないといけません。その上、フランスの卒業試験(バカロレア)といい、日本のセンター試験のようなもの)を6月に、東京のフランス人学校で受けねばならなかったのです。その勉強でも時間を取られました。しかし、

逆にお正月の行事がとても多くて驚きました。日本の年賀状はたくさん送らなければならぬので大変だと思いましたが、自分のところに届くと、やはり嬉しいと感じました。

日本でよく聞かれますが日本文化フランス文化の違いは何でしょうか。フランス人と日本人の表現のしかたは違います。日本人は意見をあまり強く伝えません。それは相手を考えたり、グループを考えたりするからです。だからこそ、日本人は平和的で、優しく、日本はとても住みやすい所です。しかし、困ったことがある時、相手を傷つけないようにして、問題に対して目をつむることがあります。一方、多くのフランス人は、おかしなことをすぐに批判します。そのおかしなことを早く直すこともあれば、批判に終わることもあります。私が思うには、その間の態度がよいかという気がします。最近フランスでは、多くの人が考えずに他人を責めることがあ



りません。クリスマスが中心です。日本は



大変な時もあったのに、ホストファミリーや先生方や友達はいつも私に優しくしてくれました。この優しさに助けられて、頑張ることができました。日本人の優しさに触れて、自分も優しくなれた気がします。

日本にいる間、色々な経験ができました。日本の季節の移り変わりが特に好きです。各季節は特別な景色や気候があるのです。しかも、各季節には特別な行事があります。春には花見に行きました。私の誕生日が4月14日なので一生忘れられない日となりました。

夏にはゆかたを着て、祭りに出かけて、花火を見ました。ホストファミリーと一緒に船に乗って、船から海に映る花火を

ります。ところが、違いがあるのに、日本文化とフランス文化によく似ているところもあります。それは、美しさや芸術に対する感性でしょう。日本人もフランス人も繊細なものを大事にします。たとえば、料理やファッションや美術の分野では、そういえます。また、言語についても、日本語とフランス語は似ているところがあります。それは両方、強弱アクセントが無くて、流れるようなところです。そこにも、両方の文化の繊細さを感じます。



最後に、国よって文化の違いがあつてそれらを強調しがちですが、なるべく国や団体に対する先入観で人のことを決めてつけない方がよいかと思えます。この留学で覚えたのは、どこの国の人と話しても、まずは同じ「人間」と話していると忘れてはいけないということなのです。

ある日のホームルーム

高校1年6組



メリークリスマス ありがとう ロロ！

昨年12月21日（金）、終業式後のホームルームでクリスマス会を開催した。学期末の慌ただしい中、留学生のロロを含めて生徒37人と担任との楽しいひと時を過ごした。

ロロさんが来校してすでに9か月が過ぎた。この「やつなみ」発行の頃は彼女はすでにフランスに帰国している。昨年4月にフランスのバリ北部のコンビエーニュという町からやって来た。この間、学校では日本語や英語の授業だけでなく、芸術や体育などにも積極的に参加した。地域の活動では、日本の伝統文化である田植え、夏祭り、餅つきなどにも参加し日本での生活を堪能した。彼女の

日本語力も大変上達し、日本文化の理解においてはきつと日本人の生徒以上かもしれない。

この度の企画は、クラス独自のLHRをとるのが困難なため、終業式後に実施することをクラスに相談したところ、賛同を得たことから、学級委員に企画をお願いした。11時過ぎから準備を始めた。黒板には大きなMerry Christmasの文字。空いたスペースには一人ひとりにイラストなりメッセージを入れてもらった。クラスを文化祭の時の6グループに分けた。BGMにはクリスマス定番の山下達郎のSeason's Greetings。最初に全員で記念撮影。アイスブレイク代わりにビザ



とジュースで歓談をした。この間にロロから差し入れ。フランスのおばさんからのクリスマスプレゼントで、Leckerli（レカカリ）というお菓子。甘さも一級品で生徒たちは大変喜んでいった。その後、学級委員からゲームの紹介があった。その①口バク伝言ゲーム。各グループ代表の生徒が前に出てお題をもらう。最初のお題は「お疲れ様」。スムーズに伝言するグループもあれば読唇術に苦労する生徒も……。中には「パニラ」という答えが出てくる始末。また、「金光町」というお題では「コンゴルド」という解答も出てくるほど。次のゲームはテレパシー。グループの代表者に前に出て来てもらい、好きな都道府県を思い浮かべたものを他のメンバーが想像して当てるというゲーム。生徒は友達の間味や関心について詳しく知っているため、この問題も意外と正解が多かった。あるグループでは「北海道」という答えだった。理由はその生徒が日本ハムファイターズの大的ファンだということが後でわかった。クラスメートのコミュニケーションがしっかりとれていると改めて感じた。ロロが前に出た時には「あなた

の好きな曲」がお題。これはさすがに難問。解答する生徒の目が困っていた。結果ロロが負ける羽目になった。間違えたグループには赤い帽子をかぶる罰ゲーム。ロロがかぶると「かわいい」の声があちらこちらから聞こえてきた。学級委員が皆さん参加ありがとうございました。これでクリスマス会を終わります、という挨拶で会をお開きにした。それぞれの心に温かいひとときをもたらすパーティーでした。貴重な思い出をありがとうロロ！



オーストラリア姉妹校 Radford College 9.20-27 来校 多くの学園生と交流を深めた8日間



Thank you! & Good luck!!

待ちに待った、オーストラリア Radford College の11名の生徒と2名の先生方との第2回姉妹校交流。多くの学園生とホストファミリーの皆さんと心温まる交流ができました。特に、3月に第1回姉妹校交流で Radford College を訪問した学園生は、半年ぶりの再会を喜び合っていました。

9月20日(水)、お昼過ぎに岡山空港に到着。Japan Tour用に新調したピンク色のポロシャツを着た Radford College の皆さんを迎え、昼食をとった後、15時20分ごろ金光学園に到着しました。16時30分からの歓迎会では、吹奏楽団のアンサンブルミニコンサートで歓迎しました。

9月21日(木)、授業体験と体育会予行。1限は中1・2の英語Cの授業に入り、お互いに自己紹介。中学1年生は習ったばかりの表現を使って、一緒に練習をしました。2限は中2・3の剣道。



竹刀を持ち、実際に「面」や「胴」を打たせてもらい、Radford の皆さんは大興奮、貴重な体験ができました。3限は高校体育会の予行、グラウンドで見学しました。4限は美術の特別授業で、折り紙で割りばし入れを作成、良いお土産になりました。昼休みは、ホスト生徒のクラスでの昼食。ホストファミリーに作ってもらったお弁当をおいしくいただきました。5限は中2・5音楽。「翼をください」を一緒に歌い、「牛タン」ゲームを楽しみました。6限は中3・3英語Cで、英語交流と折り鶴をしました。どの授業も意欲的に、楽しく交流しながら参加できました。

9月22日(金)、高校体育会参加。100M走、200M走、障害物競走、長縄跳び、むかで競走など、時折雨が降る中、多くの種目に参加し、オーストラリアにはない、日本の体育会を満喫しました。



2017年度 1年間で120名の外国のお客様を受け入れました
金光学園の国際化教育・グローバル人材の育成が
大きく進んでいます

2017年度の取り組み

月	取り組み
4月	4/8~1/31 AFS留学生(フランス)
5月	5/12(金) 岡山県国際課「国際理解講座」講演+囲む会
6月	6/17(土) English Park ALT 3名 (オーストラリア・オランダ・フィリピン) 6/26(月)~7/27(木) YFU留学生2名(アメリカ)
7月	7/31(月)~8/1(火) English Camp 生徒25名 留学生6名 教員7名
8月	8/21(月)~23(水) Konko Gakuen Summer English Village 2017 参加45名 ネイティブ講師5名
9月	9/20(水)~27(水) Radford College第2回姉妹校交流(受け入れ) 生徒11名 引率2名
10月	10/6(金) 京都アメリカ大学コンソーシアム 学生19名 所長 10/20(金) JENESYS2.0中国高校生短期招聘事業 生徒28名 引率2名
11月	11/9(木) 「EUがあなたの学校にやってくる」駐日ドイツ大使 講演+囲む会 11/21(火) 外務省「高校講座」講演+囲む会 11/26(日)~1/7(日) Radford College留学生(オーストラリア)
12月	12/9(土) NZ講演会 ニュージーランド航空 講演+囲む会 12/13(水) English Café TA 2名(ケニア・カンボジア) 12/16(土) 国際交流クラブクリスマス会 参加20名 ALT3名 +留学生2名 12/21(木)~24(日) 金光学園エンパワーメントプログラム 参加26名 留学生5名+ファシリテーター 1名
1月	
2月	2/7(水) English Café TA 2名(ケニア・カンボジア)
3月	3/10(土) 「探究活動成果発表会」ALT・留学生との 昼食交流会 30名

国際交流クラブEnglish Café 10回開催
春川女子高校姉妹校交流 春川訪問 8/14(月)~19(土) 15名 引率3名
イギリス短期語学研修 3/18(日)~4/2(月) 16名 引率1名
ニュージーランド現地校交流 3/18(日)~4/2(月) 24名 引率2名

金光学園の国際化教育の取り組み

国際化教育推進委員会



1週間という短い期間でしたが、一緒に過ごし、交流したことで、確かな絆を紡ぐことができたようでした。

9月27日(水)、出発の日。ホストファミリーを中心に、岡山駅まで見送りに行きました。新幹線ホームで抱き合ったり別れを惜しむ人、笑顔で再会を誓う人、その様子を温かく見守ってくださったホストファミリーの方々、それぞれが思い出



倉敷研修 大原美術館前

を胸に、新幹線が見えなくなるまで手を振り、別れを惜しみました。

ホストファミリーの皆様、学園生の皆さん、お世話になった全ての皆さん、大変ありがとうございました。これからも Radford College、韓国・春川女子高等学校との姉妹校交流を、ともに末永く続けていきますよう、よろしくお願いたします。



Thank you and see you again in Canberra!

9月23日(土)、広島研修。平和記念公園(原爆ドーム、資料館)を訪問し、平和を祈りました。昼食(お好み焼き)後は、楽しみにしていた野球観戦。マツダスタジアムで広島VS巨人戦を観戦しました。

9月24日(日)は、各ホストファミリーと過ごしました。岡山城、後楽園など地元の観光地に行った人、姫路に出かけた人、買い物に出かけた人など、それぞれの休日(過ごし)しました。

9月25日(月)、授業交流。1・2限は高1・1・6英語論文。ベン先生オリジナルの English Quiz をグループ対抗で楽



9月26日(火)、1・2限はホスト生徒クラスでの授業体験。いろいろな教科で分からないこともあったと思いますが、生の授業を体験してもらいました。2限後から倉敷研修に出かけ、大原美術館で鑑賞したり、美観地区でお土産を買ったりと、最後の交流を楽しみました。帰校後、16時30分から送別会。Radford生、学園生ともに、ペアで舞台上立ち、一人ずつ姉妹校交流の感想、思い出を語りました。

しみながら競いました。3・4限は、国際交流クラブ保護者会主催の調理実習。「お弁当を作ろう」と題して、普段のお弁当作りに挑戦しました。保護者の皆さんのご指導のもと、楽しく調理できました。また、着物の試着も体験でき、大変喜ばれました。昼休みには、国際交流クラブの生徒も加わって、作ったお弁当を食べながら交流を深めました。5限は中2・4地理。学園生と協力してオーストラリアクイズに挑戦しました。6限は高1・5現代文。福笑いとかかるたを使って日本文化を体験しました。放課後は、岡山大学ディスカバリープログラムの説明と、茶道部の皆さんの協力で茶道体験ができました。



茶道体験



教室で折り紙やゲームをするクラス、体育館でドッジボールや卓球、紙飛行機大会をするクラスなど、クラスごとにそれぞれ工夫して、交流を深めました。グループごとに自己紹介から始め、日本や中国のことを教え合い、英語を使って友情を育みました。

放課後は、茶道・書道・天文・バスケット・卓球の皆さんの協力を得て、希望の部活動に分かれて、日本の部活動を体験してもらいました。中国の学校には部活動がなく、学園で体験できるのを大変楽しみにしていたそうで、終わった後はとても満足そうでした。

最後の送別式。音楽部吹奏楽団の演奏から始まり、泰州中学と興化中学の各出し物、挨拶と記念品の交換、記念撮影を行い、あわただしくも充実した1日が終わりました。帰りのバスの車窓からは、金光学園での学校交流に満足した笑



顔が溢れていました。多くの生徒の皆さんの協力で、日中友好のかけ橋となる交流ができました。関わった皆さんの中には中国に対する印象も大きく変わり、人と人のつながりや交流の素晴らしさを体験した人が多くいたようです。耳にする情報ではなく、実際につきあってみて初めて分かることもありますね。これからも他国のことを知り、他国の人々と交流することで、共に住みやすい平和な世界を創っていきましょう。

●アンケートより「感想」
 〈高2〉

- とても良かった。しかしせっかくなので通訳の人がいるので、授業の説明や前置きをもっと短く日本語で済ませて、中国語に訳してもらい、生徒の話は英語ですればいいと思う。
- 数学の授業と一緒に活動してみて、中国人にあまり良いイメージを持っていなかった私の感情が大きく変わった。とても友好的で、話していることは半分ぐらいしか分からなかったけど、とても良い交流ができたと思った。
- 話してみたいという気持ちで英語を使

う意識ができた。とても楽しく、昼も楽しかった。ぜひまた交流したい。

〈中3〉

- 交流をしてみて、まず中国人の英語力が思っていたよりも良かった。自分の言いたいことを伝えるのはかなり難しく、まともな会話ができませんでした。次に機会があったら、もっと話せるようにしたいです。
- あまり積極的に話すことができなかった。でも、相手がトイレに行きたいといっただけで連れて行ってあげてくれたとき、私が「兄弟はいるの?」と聞くと、一人っ子政策について説明してくれた。私はそのとき、中国のことについて身近に考えることができた。いい経験ができたと思った。
- 中国の人は日本にもたくさん住んでいるので、今朝も見かけることがあった。そんな中国の人々も政府同士の仲は、日本とは悪い。しかし、留学生として日本に来た学生の人たちは礼儀正しく、私たちとも積極的にコミュニケーションをとってくれた。機会を作り、外国人と交流したい。

JENESYS 2.0 中国高校生訪日団 江蘇省泰州中学・興化中学の皆さんが来校 金光学園が日中友好のかけ橋に



国が行っているJENESYS2.0(ジェネシス)プログラムで、中国高校生訪日団の生徒28名、引率の先生2名を10月20日(金)にお迎えしました。一行は予定時刻よりも少し早く、10時過ぎに到着しました。バスから降りて来た制服姿の高校生は、やや緊張した面持ちでしたが、これから始まる日本の中高生との交流に期待しているようでした。

まず、3時間目の高校2年1〜4組の数学Ⅱは、担当の田中先生のアイデアで、岡山名産のブドウを使った授業。1房のブドウのどの部分が一番甘いかを仮説を立て、糖度計を使って実際に統計を取り、確かめました。学園生と中国の高校生と協力をして、糖度や枝からの距離を測定しました。

中国高校生も引率の先生方も、予想しなかった授業内容にとっても驚き、ブドウもおおいしくいただきました。

続いて4時間目も高校2年1組の漢



文の授業で、漢詩を鑑賞し、日本の読み方と中国の読み方をお互いに教え合いました。2コマ一緒に活動した高2・1の生徒の中には、中国の高校生ととても仲良くなった人もいました。日本語はほとんど通じない中で、英語を使ってコミュニケーションをとっていました。

昼休みは、大ホールで国際交流クラブ主催の昼食交流会。中学1年生も大勢参加して、自分の知っている限りの英語を使いながら、昼食を一緒に食べ、楽しく交流しました。

5時間目は中学2年2組の音楽の授業。「翼をください」を歌えるように、日本語の歌詞を教えてあげて、ピアノ伴奏に合わせて一緒に練習をし、最後は全員できれいな歌声を響かせました。

6時間目は、中学3年の5クラスに分かれて、それぞれで交流会を持ちました。



「EUがあなたの学校にやってくる 2017」
ヴェアテルン駐日ドイツ連邦共和国大使が来校
 EUの歴史を知り、平和について学ぶ



11月9日(木)、「EUがあなたの学校にやってくる2017」の企画で、駐日ドイツ連邦共和国大使館より、ハンス・カール・フォン・ヴェアテルン大使 (Mr. Hans Carl von Werthern) と通訳のベアテ・フォン・デア・オステンさんが金光学園を訪問され、講演会と「大使を囲む会」を開催しました。

7限の講演会は、高1・1・6組、高2・1組と、中学・高校の生徒・保護者の希望者が参加して行いました。冒頭、ヴェアテルン大使が参加生徒の皆さんに英語で語りかけ、これから始まるお話への興味をグッと引きつけてくださいました。その後の講演は、ヴェアテルン大使がドイツ語で話し、それを通訳のオステンさんが日本語で説明するという形で行われました。

講演は、「EUとは」「世界の中のEU」「EUと日本」「ドイツと日本」の4つのテーマを中心にパワーポイントを使って話され、途中「EUクイズ」を何問かはさむなど、工夫されていました。EUの役割や旗の12個の星の意味、EUの主要3原則(①対立ではなく協力、②国境のない暮らし、③問題はいつも共同で解決)

についても語っていただき、大変勉強になりました。

講演後の質疑応答は、積極的に質問する生徒が多く、時間いっぱい使っても足りないくらいでした。また、統括の「ヴェアテルン大使を囲む会」(国際交流クラブ主催)にも、20名を超える生徒・保護者の皆さんが参加し、高1・5大原綾華さんの司会で、予定時間を大幅に超えて、活発な質問を大使に投げ掛けました。大使も、一つひとつの質問に丁寧に、真摯に答えてくださいました。大使の気さくな、温かい人柄を感じる事ができました。囲む会の最後には、お礼の意味を込めて、音楽部吹奏楽団によるミニコンサートで、大使に楽しんでいただきました。

お別れするとき、ヴェアテルン大使から「東京に研修に来る機会があったら、ぜひドイツ大使館に来てください」と声をかけていただきました。わざわざ2時間ほどの交流でしたが、



《中》

- ・とても前向きで、日本語を頑張っている姿がカッコよかった。歌もとても上手で、楽しい時間になった。初めは少し不安だったけど、頑張る姿に励まされ、楽しく会話することができた。伝えたいことが伝わったときの喜びは大きかった。
- ・留学生の方はみんな優しく、私が歌詞をゆっくり話していくと「Thank you」と言ってくれたのがうれしかった。お土産までいただいて、今家に飾っています。それを見るたびに交流会のことを思い出します。ぜひまたこのような機会があればいいなと思います。
- ・すごく英語が上手で、中国人とは思えないくらいでした。交流ができたおかげで、自分の英語のレベルがしっかりと分かったほか、伝えようとするこの大切さを知りました。また、中国の人たちは、



日本語の辞書をオリジナルで作っておられて、話している最中に分からない言葉があったら、教え合ったり調べたりしていたので、私も見習わないといけないと思いました。また、交流があったりしたら、今よりもレベルを上げた英語で会話したいです。





大使とっては金光学園での時間が、大変印象深いものになったようでした。「EUがあなたの学校にやってくる」に参加した生徒・保護者の皆さん、ありがとうございました。来年も、ぜひこの企画に手を挙げようと思っています。これからどうぞよろしくお願いいたします。

以下に、参加生徒・保護者の皆さんの感想を載せます。

《高2》

- それぞれの国旗に意味があるように、EUの旗にも意味があることを知った。アメリカのように、州の数が増えることで（星の数が）増えるのではなく、協調性などを意味する12個の星は変わることがないなど、とても勉強になった。いろいろな国が平和の実現に向けて取り組んでいることが分かった。
- 私たちは普段EUについて知る機会は少ないので、とても貴重で、とても勉強

強になった。土地的にはヨーロッパと日本という、とても離れた位置にあるが、日本とEUのつながりがあるということを知り、とても驚いた。EUとはヨーロッパ全体のほとんどの国が加盟している連盟という漠然とした認識しかなかったが、協定を検討していることやEUと日本の関係が深いことを知り、私自身もEUとEUのことや世界について知るべきだと思った。大使がおっしゃっている通り、平和にはお互いの違いを理解することが大事だと思った。

EUが日本と何らかの関係を持つとして、EUが強く分かった。国と国が統一するのはとても簡単なものではないと学んだ。EUだけでなく他の国でも協力していくために、お互いを尊重することがとても大切なことなんだ

敵だと思いき、私も賛同できる。誰もが賛同できるEUには、何が一番必要ですか？

《高1》

- 各国の協力によって成り立っているEUだが、28か国へと多くなったのは意

外にも2000年以降だったことに驚いた。日本は島国なので、周りの国と国境がないということが想像すらできないが、国境がないということや両替の必要がないということは、まさに各国が平等であることを現しているように思えた。日本とEU、日本とドイツは互いに必要な関係であり、国際的な社会の中で平和な世の中が続いていくためにはどのようなことが大切になってくるか考えたいと思った。

EUについて、中学のときに習っていたのでよく知っていると聞いていたけれど、今回の話を聞くと知らないことばかりで驚きました。また、大使の話に合ったように、たくさん外国へ出て、いろいろな経験をしながら、という話は、本当に大事なことでだなと思いました。世界のことを知り、平和を求めるためには、たくさん



ことを知り、外国の異文化や宗教についてなど、様々な国の相違を知ることが本場に大切だと思いました。積極的な人になり、視野を広げることの大切さを改めて知ることができました。今回話を聞くことができて本当に良かったです。

日本がEUにとって大切にされている理由が、日本とヨーロッパは分野で価値観が同じだからだという話が印象的でした。他国に行き、その国の文化や宗教、生活様式はもちろん日本とは違うので、そこは理解すること、相手を尊重することが大事だと言われ、私たちの合言葉が改めて大事なんだと思いました。あまり知らなかったことを知れて、とてもおもしろかったです。良い機会でした。家でも少し調べてみようと思っています。

《囲む会参加者》

- EUと日本の関係がよく分かった。社会は苦手だけど、この話で社会に興味を持てた。パンフレットもとても分かりやすかった。ドイツと日本の間にも、2つの重要な協定があることを知った。ドイツはすごいなあと思う。(中1)

- 平和を構築するためにはいろいろなことを知ることが大切だということが分かった。留学を勧めたので、少し考えてみようと思った。EUのことを知れて良かった。先輩方がみんな細かい質問をしていて、私はそんなことが全く思いつかなかったもので、英語を、歴史をもっと勉強して、みんなの話についていけるようにしたいと思いました。(中3)
- 「EUは第二次世界大戦後に、二度と戦争を起こさないようにするために作られた」と聞き、平和を目指す試みがあることに驚いた。言語などが違うのに協力しているEUはすごいと思った。アジアもEUみたいになってほしい。大使が様々な知識をたくさん持っていることにとても驚いた。知識は大切だと知った。(高2)

《保護者》

- 講演会の生徒たちの質問がとても良い内容だったと思います。ミニコンサートも良かったです。ぜひまたこのような機会を作っていたら嬉しそうです。普通に生活していれば絶対にお会い

きない大使に会うことができ、感激です。囲む会では、大使の仕事そのものにも触れられて、その場にいた生徒さんたちの何かのきっかけになるかもしれないです。素晴らしい経験。来年も期待しています！

私の通った中・高校では、このようなイベントはありませんでした。今思うととても残念です。このような体験ができるのは、とても幸せなことだと考えています。こういうイベントをこれからも続けて欲しいです。子どもにはこういう体験をするチャンスが無駄にするな!!と言っています。ありがとうございます。ありがとうございました。



生徒入賞作品

▼第63回青少年読書感想文

岡山県入選作品

『ホイッパール川川川』の伝説』を読んで

中1 根本 蓮

悲しくて、辛い物語だった。表紙の絵を見た時から、森のひんやりした空気が感じた。

どんな物語なのかといえば、切なる願いをもった人が、その願いをこめて、不思議な力を信じ、その願いが叶うことを求めることから始まる。

日本にも、神だのみという行動を起こすことがしばしばある。普段は神様なんて信じていないのに、願い事があれば、手を合わせる。神様に願い事をする。

物語に出てくる「願い石」は「切なる願い」しか叶わないという。それを信じ、主人公ジュールズを始めとする人々は、危険をおかしてまでも、「奈落の淵」へ石を投げ入れようとする。しかし、本当に願い事が叶っているのかと考えると……。そこに幸福感を感じることはできなかった。

「もしかしたら、ルリツグみたいに飛んでいくかも。」

「もしかしたら、だれからも見えないくらい、とても小さくなるかも。」

もしかしたら、もしかしたら……。

現実と向き合うジュールズは、とても大人に見えたけれど、本当は小さな女の子なんだと改めて思った。だから、キツネが助けに来たときは本当にはっとした。しめったキノコのおいやサトウカエデのあまい香りもジュールズを助けてくれているような気がした。

ジュールズとセナが走ったその瞬間、最初に感じた森のひんやりとした空気感はなく、羽のような雪片の中を落ちていくその光景は、キラキラと輝く光に包まれていた。

もしかすると、夢のような出来事は、だれにでも起こり得るのではないか。日々の生活を積み重ねることで見えてくる未来も「もしかすると」が希望になるのだ。

この物語を読み終えた後、少し、暗く悲しい気持ちになった。しかし、本を閉じてしばらく時間が経つと、不思議と心が温かくなった。

現実と空想の世界に生きる私たち。

主人公ジュールズの姉シルヴィは思いあまって亡くなってしまった。ジュールズの母もまた病死している。ジュールズの父親の辛さは計りしれない。妻と娘を亡くしたのだから。普通に考えれば、「神様なんていない」と悲しみにくれるだろう。登場人物が笑顔でいることは想像できなかったが、それでも何らかの希望を見出し、生きる強さを感じた。

森の中で、ひっそりと暮らす家族。読みすすめるうち、少しずつ気持ちになつたところで一匹のキツネが誕生する。

「ケネン」……どんな生き物も誕生する前から何かとつながっているといわれている。その中でもケネンは、木や空、雨などではなく、魂とつながっているらしい。それはなぜなのかはだれにもわかっていない。

ケネンは、まだ終わっていないことを終わらせ、落ち着かせる必要のあることを落ち着かせるものだという考えもあるらしい。真の目的は何かとつての助けになることだという考えもあるようだ。物語の悲しい、ひんやりとした空気の中で、このケネンとよばれるキツネが誕生したことで、少し明るい陽差しが差したように感じた。

目を閉じて、もう一度、あのひんやりとした、でも温かい森へ行ってみたくなった。

私は私らしく

中2 和田 真穂

私は、「ちょっと今から仕事やめてくる」という本を読んだ。この本は、ブラック企業にこき使われて心身共に衰弱した隆が「ヤマト」という同級生を自称する人物に助けられていく物語をえがいている。隆の勤務生活は私が思っていたよりもドロドロとしたものであった。

この本を読んで思ったことが三つある。

一つ目は、大人になると過酷な世界でも生きていかなければいけないということだ。私は、当然まだ、大人にはなっていない。だから、この本ではいくら隆の生活が辛そうに見えても、本当の辛さは自分も隆と同じ経験をするかもしれない。自分も隆と同じ経験をするかもしれない。今も、友達や先生、家族とうまくいかなかったり相手と憎んだりしてしまう。このまま大人になると、私も隆のように疲れ果ててしまうかもしれない。だから、まずは何事も乗り越えられぬ力をつけたい。今はそう思うが、自分を押し殺してまで

父や母、親と子、兄や弟、姉妹などの関係は、一つとして同じものはない。ジュールズは姉、シルヴィの本当の思いを最後まで知ることができなかった。

突然いなくなってしまう姉への思いは計りしれない。その点、ジュールズの姉、シルヴィはケネンと呼ばれるキツネに生まれ変わり、ジュールズを守る。

身近な人を失った喪失感と大切な人を守るために生まれ変わり、充実感にも似た感覚を持つキツネ。一瞬、陽が差したようにも感じた物語に、逆に何ともいえない静けさを感じた。キツネの声が、常に悲しく聞こえたことも辛かった。

物語の舞台はアメリカ、ヴァーモント州。冬は長く、雪深い地域だそう。姉シルヴィがいなくなったのも、雪道にいた姉の足跡をどんな気持ちでたどったのか……。寒さにも勝る、胸の鼓動を感じ、苦しくなった。

風景を感じながら、読みすすめていくうちに、私は現実におこることと夢の中でおこることの間にいた。人との出会いやそこで起きるキセキは、時々、夢なのか、現実なのか分からなくなることがある。「もしかしたら、羽がはえるかも。」

努力を続ける苦しさも、隆を通して伝わってきた。時には、逃げることも大切なのだと覚えておきたい。

二つ目は、ヤマトの優しさや隆との友情がステキだなあと思ったことだ。急に隆の前に現れて、急に消えるヤマトは最初は「なんだコイツ、遊び半分で隆に声をかけたのかな。」と私は思っていた。でも、二人の距離がだいに縮まっていくうちに、お互いの悩みや怒り、楽しさを打ち明けていけるようになり、親友のように接していく。隆が落ちこんでいる時に、ヤマトが優しく対応してあげるのには、隆に勇気づけて生きる希望を与えただろう。私にも、ヤマトみたいな、優しい友達がいる。同じ部活動であることがきっかけで休日は一緒に遊んだり、一緒に登下校したりしている。私はこの友達が大好きだ。でも、時々、考え方や思いが違ってケンカになる時がある。そんな時は、お互いが落ちこんでしまう。だからといって、そのまま無視をし続けるわけでもない。自然とどちらかが声をかけて、何もなかったかのように仲直りをする。だから、私は、こんな友達に出会えて本当によかったなと思う。しか

し、ヤマモトが優しいのは、自分にも辛い過去があったからだ。仲を深める内に、隆はささいな表情の変化でヤマモトの辛さに気づくことができ、最後にはヤマモトを救う側になることができた。私も、今の友達を大切に、表情の変化などに気づいてあげられるようになり、ヤマモトと隆のような友情を築きたい。

三つめは、隆の成長に感動したことだ。入社したばかりのころの隆は、仕事ができないうとすぐに落ち込んでしまい、無意識に線路に飛びこもうとするほど心が病んでいた。もう会社に行きたくない、今日も最悪な一日が始まる、といった思いがあったはずだ。でも、ヤマモトからのアドバイスを聞いていく内に、隆の心の中で、少しずつ何かが変化していく。最後に会社をやめる時には、部長や社員の人たちに堂々とあいさつをしたことに私はおどろいた。それは、隆の今までの性格や行動からすると、とてもできそうにないように思えたからだ。少しずつ隆が変わっていったのは、ヤマモトのおかげでもあると思うが、隆本人が変わろうと努力したおかげでもあると思う。そんな隆に、私はあこがれてしまう。そして今

の私と隆を比べてしまう。私も隆みたいな人間であるだろうか。たぶん、違うと思う。友達に対してでも家族に対してでも、言いたくも言えなかったり、やろうと思つたのにもかかわらずできない自分がある。今のままの自分ではいけない。私も隆みたいに変わりたい。「隆みたいに相手に自分の思いを伝えることができるようになりたい。」というように私は思つた。今の私を変えるために、この本は私を導いたのだと思う。生きることのすばらしさを胸に、隆のようにカッコよく何かを成しとげたい。

私は、この本を読んで生きることの大切さを教わった。適当な人生を送りたくはない。自分が生きていることには、どういう意味があるのか、何のために生きているのか、ということを考えて、これからの人生を楽しく色鮮やかなものにしていきたい。私は私らしく生きるために、少しずつもいいから自分磨きを頑張らなくてはいけない。最高の自分になるためにも自分で自分を大切に、いつも笑顔でいたい。「自分、最高！自分、一番！」そんなふうにして、今、生きることに集中しよう。

『手をつなごうよ フィリピン・ミンダナオ子ども図書館』を読んで

中3 瀬崎 萌々子

私がこの本を読もうと思った理由は、「紛争で笑顔が消えた子どもたちの笑顔をとりもどしたのが、図書館だった。」という言葉が表紙に書いてあり、とても興味を持ったからです。

この本の著者の松居友さんは、フィリピンにあるミンダナオ島の、我が子のように思っている子どもたちの幸せを願って、『ミンダナオ子ども図書館』をつくりあげて、今も活動を続けている一人の日本人です。私はこのような立派な日本人がいるということに、とても感心しました。激しい紛争が起こっている国に滞在することも、とても勇気がいることなので、本当に素晴らしいと思います。

この本を読んでいて、特に印象的だったのが、キリスト教、イスラム教、先住民民族など、様々な民族の子どもたちが、ひとつの家族となつて暮らしているということ。実は『ミンダナオ子ども図書館』は、図書館だけでなく、いろんな施設がそろっています。ここには約六〇〇人もの、とても貧しい子どもたち

がいつしよに暮らしています。紛争で大変な思いをしてきた子どもたちが協力しあうからこそ、真の友情や愛が生まれるのです。そして、宗教のちがう子どもたちは、お互いのちがいを認め合いながら生活しています。

私たち日本人は、日々様々な人間関係の悩みをかかえて生きていますが、お互いのちがいを認め合つて生活するということは、とても大事なことだと思います。人間は一人一人異なつていて、考え方や生き方も多様ですが、みんな同じ人間であると思うと、かかえていた悩みが軽いのなのだということに気がつかれます。世界をみつめてみると、まだまだ希望や夢が広がるんだと改めて実感しました。私はもし、「なぜ学校に行くのか？」と聞かれたら、今まではこう答えていました。「自分が生きていくために、良い仕事につきたいから。」と。

しかし、ミンダナオの子どもたちは、こう答えたのです。「少しでも良い仕事について、苦勞している家族を助けて、楽にさせてあげたいから。」と。

その言葉は私の心にとでも響きました。

この時、私はあきらかな違いに気がつきました。私は自分のために働くこうとしていくので、ミンダナオの優しい子どもたちは、自分ではなく家族のために働くこうとしていくことを。苦しくても助け合いながら生活することが、そのような優しさで純粋さを生み出すのだと感じました。松居さんは、ミンダナオの子どもたちを沢山救つてきましたが、最近日本では、孤独で自殺する若者が増えてきており、日本の若者たちが心配になってきたそうです。先進国である日本は、ミンダナオの子どもたちにとって、精神的に安定している、豊かで理想の国として映っていますが、実際には日本人がミンダナオの子どもたちから学べるのが、沢山あると思います。つまり、私たちもミンダナオの子どもたちのように、愛と豊かな心を持つて生きることが大切だと思いました。私はこの本から教えてもらったことがいくつもあります。

まず、自ら行動することで救われる命が沢山あるんだと気がつきました。また、本を読んで笑顔を取り戻した子どもたちを見ることで、大人たちも自然と笑顔になると思います。すると結果的に、みんな

なが笑顔になっていくのです。私は普段あまり本を読みませんが、本で笑顔を取りもどしている人が多くいることを知り、これからは時間があつたら本を読んで、子どもたちの笑顔を思い浮かべながら、楽しく、想像力を広げていこうと思つた。

そして、私たちは以前、沖縄戦について学び、辛い過去を目の当たりにしましたが、このような悲惨な境遇が、まだ日本の国で起こっているということを知り、とても残念に思いました。でも、これからの未来を変えていくことができるのは、私たちだと思います。世界中の一人一人がミンダナオの子どもたちのように、清らかで愛にあふれた人間になれば、世界も良い方向に変わるのではないのでしょうか。そして私は最後にあることに気がつきました。「なぜ学校に行くのか？」という質問に対しての自分の新たな答えを。

それは、「これからの世界中の未来を変えていくために。」この答えは、今も私の心の中にあります。未来を変えるために、今私たちには何ができるのか？今から自分にできることを、探しながら生きていこうと思います。

生徒会活動

《高校生徒会》

2月9日(金)、第二回生徒会総会が行われた。今年度の各種専門委員会、学年代表者会議、執行部の年間総括について審議され、すべて原案通りに承認された。運営は円滑に進み、舞台上で発言した各種専門委員長、学年代表者会議議長、執行部からはいずれも堂々とした態度で発表を行い、質問や意見に対して誠実に答えた。

《中学生徒会》

次年度の生徒会を担う生徒会長選挙が1月6日に公示され、中1・2の9クラスから12名(男子10名・女子2名)が立候補した。12日の立会演説会では、政策や公約と共に候補者の熱い思いが訴えられた。公約は、きれいな学校やあいさつ運動など学校を基本からよくしていくというものが多くみられた。17日の公開質問会では多くの質問が出され、候補者の考えを更に理解できる良い機会となった。

化財団理事長賞を受賞。

《茶道部》

11月19日に竹園会(お茶会)が碧水庵で行われ、日ごろの練習の成果を披露した。また、1月28日に土佐家旅館を会場に行われた「三世代交流昔あそび冬の陣」のイベントの中で、茶道体験の手伝いを行った。はじめてお茶をたてる方に、それぞれが工夫しながら一生懸命説明した。また、様々な年代の方と昔あそびを通して話ができ、よい交流ができた。

《音楽部吹奏楽団》

11月16日(木)は創立記念式にて「RAIN」[Everything for a Dream]「神人の栄光」[学園歌「君が代」]を演奏した。11月18日(土)は浅口市民会館金光にて金光町音楽祭に参加して、「シロクマ」[Make her mine]「Everything for a Dream」フィナーレ「今日の日はさようなら」を演奏した。11月23日(木)は倉敷市民会館にてバンドフェスティバルに参加して、「Everything for a Dream」[シロクマ]「高吹連盟の歌」を演奏した。1月27日(土)は倉敷市民会館にてジョイフルコンサートに参加して、「ディーパープルメドレー」を演奏

た。19日の投票の結果、会長に2年の福武莉奈さん、副会長に1年の西俊一くん、蔵田鳴洋くんが当選した。認証式後、2月2日に新事務局員募集のための説明会を行った。中1・2から約40名が参加をした。会終了後の第一次意思確認では、30人以上が「事務局員をやりたい」と名乗りを上げた。しばらくは現事務局員と一緒に活動し、3月9日の春季球技大会や3月16日に行われる中学ゆずり葉などの準備の中で、段取りや運営の仕方を身に付けていく。最終的には新年度になってから新事務局員を決定する。

《新聞部》

高校卒業式にはつま新聞203号を発行した。

《天文部》

12月19日・20日に日本科学未来館で行われた第15回高校生科学技術チャレンジJSEC2017最終審査会において、高2の上川湜太君が、「多点観測によるベルセウス座流星群の研究」の発表を行い、文部科学大臣賞を受賞した。

12月23日に中学棟屋上天文台で、夜間観測を行い、冷却CCDカメラを使用して星雲などの天体写真を撮影した。

し、「私のたからもの」「歓びの歌」を合唱した。2月4日(日)は笠岡市民会館にてウィンターコンサートin笠岡にゲスト出演として参加し、「ハリウッド万歳」[Everything for a Dream]「ディーパープルメドレー」[HERO(トーンチャイム)]「CAN YOU CELEBRATE?」[シロクマ]を演奏し、「きみの夢」を合唱した。

《音楽部コーラス》

11月11日(土)に福山市の老人ホーム幸楽園を訪問させていただき、交流会をした。懐メロを中心に歌い、手遊びなどを一緒にすることで交流を深めることができた。

11月18日(土)に金光公民館で開催された金光町音楽祭に参加した。【曲目】「タッチ」「女々しくて」「やっつてみよう」12月22日(金)に部内でクリスマス会を開催し、和やかに楽しい時間となった。1月27日(土)に倉敷市民会館で開催された高梁川流域音楽会ジョイフルコンサートに参加した。【曲目】「super star」「タッチ」

2月11日(日)に倉敷芸文館で開催された岡山県ヴォーカルアンサンブルコンテストに出場した。中学生の部に2団体、

12月26日に中学棟屋上天文台で変光星VY10の観測を行った。

《科学部》

オーストラリアからの短期留学生タラさんと一緒に、身近なものを使って蒸留装置づくりを行いました。アイデアを出し合い、みんなで1つのものを作ることはとても楽しいです。

《電気科学部》

中学は11月23日に岡山市御津中学校で、創造アイデアロボットコンテスト応用部門に4台出場したが、予選リーグ敗退であった。

《中・高美術部》

中学美術部は、透明水彩絵の具で静物を描き、絵の具の使い方や技法に取り組んでいる。高校美術部は、個人で制作をしている。

《書道部》

JA共済岡山県小・中学生書道コンクールにおいて、中2赤沢梨吏が佳作、中1山田紋歌が入選を受賞。「小さな親切」書道コンクールにおいて、中2赤沢梨吏が優秀賞、中1山田紋歌が入選を受賞。第24回犬養木堂顕彰児童生徒書道展において、中2赤沢梨吏が岡山県郷土文

高校の部に4団体が出場。以下結果と曲目。

(中学生の部) 銀賞「かんかんかくれんば」銅賞「五木の子守唄」「じよりぎとうかんや」

(高校生の部) 銀賞「一本の樹」「秋とピエロ」銀賞「歩く」銅賞「ころろようたへ」銅賞「涙の樹」「種子はさへづる」

《中放送部》

中学生徒会会長選挙における政見放送を制作した。

《高放送部》

2月17日に市民会館金光で開催された高2音楽選択者の発表会に高1、2の部員が協力した。

《文芸部》

12月に「読書三到」、1月に「つながり」と題した月例集を制作し、批評会を行うことで互いに研鑽に励んだ。また、卒業式に際しては記念集「平成六歌仙」を制作し、6人の卒業生に贈っている。

《木綿崎ボランティア部》

1月29日～2月3日まで宗教教室において「寒心行」を実施した。お話は城戸先生、有馬先生、土井先生、岡本樹生くん(木綿崎ボランティア部)、金光校長が

日替わりで行った。最終日は宗教教室に85名ほどの参加者が訪れた。

《陸上競技部》

シーズンへ向けて日々練習中です。

《ラグビー部》

12月16日(土)から美作市長杯ラグビーフットボール大会に岡山朝日・岡山一宮・鴨方との合同チームで参加。予選リーグでは関西に14・12で勝利し、玉島に0・54で敗れた。翌日の決勝リーグでは津山工業に10・62で敗れた。平成30年1月3日には正三会を実施。多くの卒業生と交流試合を行った。1月21日(土)からスタートした新人戦には岡山一宮・鴨方との合同チームで参加。1回戦は玉島に0・93で敗れた。27日(土)の3位決定トーナメント1回戦では合同C(岡山城東・津山工専・林野)に7・36で敗れた。岡山県選抜選手に高2甲斐准輝が、U17岡山県選抜選手に高1・原田将樹が選ばれた。

《中男子ソフトテニス部》

12月23日にびんご運動公園テニスコートで行われた中四国選抜ソフトテニス大会では、A・B・Cチームがベスト8に入った。冬の間は、春からの大会に向けて

て基本的な練習に励んでいる。

《中女子ソフトテニス部》

12月10日に第19回しまなみスリクソニックカップ中学生ソフトテニス研修大会(団体)、12月24日に第23回中国・四国中学校選抜ソフトテニス大会(団体)、1月7日に第4回びんごウインターカップ中学生ソフトテニス研修大会(団体)、1月21日に第14回西日本メープルカップ中学生ソフトテニス研修大会(団体)、2月4日に第12回びんごチャレンジカップ中学生ソフトテニス研修大会(団体)と、多くの対外試合に出場し、いろいろな学校の選手と対戦して、技量を高めた。

《高男子ソフトテニス部》

2月3日(土)に岡山県技術等級ソフトテニス大会が備前テニスセンターでおこなわれた。中級の部・初級の部にそれぞれ1ペアが出場したが、ともに予選リーグで敗退した。現在は中学3年生を交えて、3月末の大会と4月から始まる公式戦に向け練習を重ねている。

《高女子ソフトテニス部》

2月3日に浦安総合公園テニスコートで行われた、岡山県技術等級ソフトテニス大会(中級の部)に2ペアが出場したが、

予選リーグで敗退。

《中学野球部》

11月11、12日に総社市長杯卓球大会に参加した。男子団体で予選2位、決勝トーナメント1回戦で敗退し、ベスト16であった。

11月19日に井原卓球協会会長杯争奪卓球大会に参加した。

12月16日に山陽新聞社杯争奪卓球大会に参加した。男子シングルスで中2東がベスト64に入った。

12月25日に全国中学選抜卓球大会岡山県予選会に参加した。男子団体で予選3位であった。

12月27、28日に瀬戸内少年卓球大会に参加した。男子団体で予選2位、2位トーナメントで3位に入った。

12月27、28日に鳴門市中学校オープン卓球強化大会に参加した。男子団体で予選3位、3位トーナメントで3位に入った。

1月7日にニッタク杯争奪岡崎市卓球大会に参加した。男子団体で3位に入賞した。

1月14日に井原卓球協会後期個人戦卓球大会に参加した。男子2位トーナメント

トで中2原田が1位、中2内海が2位であった。

1月20日に岡山県中学生加盟団体卓球選手権大会に参加した。男子団体で予選1位、決勝トーナメント1回戦で敗退し、ベスト16であった。

2月4日に福山市市民卓球選手権大会に参加した。

2月11日に県境卓球研修会に参加し、男子団体で3位に入賞した。

2月17日にニッタク杯総社オープンカード卓球大会に参加した。

2月18日に伯方島後期卓球大会に参加した。

《高校卓球部》

11月12日に総社市長杯卓球大会に参加した。一般男子シングルスで高2神原と高2升本が予選を1位で通過し、決勝トーナメント1回戦で敗退した。

11月19日に井原卓球協会会長杯争奪卓球大会に参加した。男子団体で予選2位であった。

11月23日に岡山県高校新人大会に出場した。男子シングルスで升本がベスト16に入った。

12月23、24日に岡山県高校新人大会に

出場した。男子ダブルスでは高2古賀・升本組がベスト8に入った。男子団体では2回戦で岡山理大附属に3・2、3回戦で総社に3・2、準々決勝で岡山商大附属に3・2で勝ち、準決勝で倉敷工業に1・3で敗れ、3位決定で岡山操山に1・3で敗れたがベスト4で中国大会出場を決めた。

1月7日にニッタク杯争奪岡崎市卓球大会に参加した。男子団体で予選2位、決勝トーナメント4位であった。

1月8日に全国高校選抜卓球大会岡山県予選会に出場した。男子シングルスで升本が優勝し、全国高校選抜卓球大会への出場を決めた。

2月2・4日に全国高等学校選抜卓球大会中国地区予選会に出場した。男子団体予選リーグで誠英(山口)に0・3で敗れ、近大附属福山(広島)に1・3で敗れた。

2月12日に山陽新聞社杯争奪卓球大会に参加した。一般男子シングルスで高1瀬良が予選を1位で通過し、決勝トーナメント1回戦で敗退した。

《中学野球部》

11月18、19日に玉島の森で行われた第

18回玉浅良寛杯中学校野球大会では、2回戦4・3で玉島北中学校に勝利し、準決勝は2・2で特別延長の末2・1で金光中学校に勝利した。決勝では、2・0で玉島西中学校に勝利し、4年ぶり10度目の優勝を収めた。大会を通じて、原田烈華くんが最優秀選手賞、小幡知貴くんが打撃賞を受賞した。

年末の高知遠征では、さいたま選抜に勝利するなど4戦で2勝1敗1分であった。

《高サッカー》

岡山県高校サッカー新人大会備中地区予選会一次リーグが12月17日・23日・24日に行われた。対天城(1・0)、対矢掛(2・0)、対倉敷工業(0・4)。2勝1敗で代表決定戦へ進出し、1月7日、対玉島商業(3・0)。新人戦県大会への出場権を得た。1月2日には毎年恒例のOB会を開催した。総勢70名を超える参加で、現役生vsOBやOBvsOBの白熱した試合が繰り広げられた。中には親子対決もあるなど、非常に有意義な時間となった。岡山県高校サッカー新人大会1回戦が1月28日に行われた。対西大寺、(0・0、延長…0・1)。

《中柔道部》

12月10日に行われた、第17回倉敷武道館柔道大会の男子団体戦に出場し、予選リーグ敗退となった。

12月23日に玉野スポーツセンターで行われた、中学強化合宿に参加した。

《高柔道部》

1月20、21日に岡山武道館で行われた、第40回全国高等学校柔道選手権大会岡山大会に出場した。男子団体は岡山工業高校に、女子団体は玉野光南高校にそれぞれ1回戦で敗退した。男子個人戦では73kg級で高2虫明春哉がベスト8となった。

12月26日より3日間、玉野スポーツセンターで行われた、高校強化合宿に参加した。

《中・高柔道部》

1月5日に本部参拝と初稽古を行った。多くのOBの方々に参加いただき、また保護者の方々にもお越しいただきました。ありがとうございました。

《中剣道部》

《岡山県中学1・2年生大会》 1月21日(日) 笠岡総合体育館で開催され、一回戦はシード、二回戦は中山中学に勝ち、三

回戦で県立津山中学に負ける。

《高剣道部》

《全国選抜大会岡山県予選会》 1月27日(土) 岡山市総合文化体育館で開催され、一回戦はシード、二回戦は笠岡工業高校に勝ち、三回戦で倉敷商業高校に負け、ベスト16であった。

《中・高剣道部》

《稽古始め・OB・OG会》 1月2日(火) 道場にて開催し、先輩方に稽古をお願いして、快い汗を流した。

《寒稽古》 1月9(火) 13(土)、道場にて「厳寒に鍛える」をモットーに寒稽古を実施した。皆勤者は浅野優斗(中学1年)、日名啓介(高校2年、5年連続)の2名であった。

《高少林寺拳法部》

12月23日(祝)、広島県広島市で開催された全国高体連少林寺拳法専門部主催のブロック別強化練習会に参加した。その後は各自、大会・昇級・昇段試験にむけ練習に取り組んだ。

《中男子バスケットボール部》

12月17日に行われたALL OKAYAMA WINTER CUP 1次リーグでは、操南中・倉敷第一中・岡大附属中・赤坂中と対戦

し全勝することができ、1月に行われた2次リーグへの進出を決めた。1月14日に行われた2次リーグでは、倉敷東中・旭東中・芳泉中・奈義中と対戦し、倉敷東中に敗れ、決勝トーナメントへの出場はできなかった。県大会で敗れた奈義中に勝利するなど、普段の練習の成果を出すことができた。

1月7・8日に行われた『玉島・浅口・笠岡地区バスケットボール大会』が行われた。一日目、玉島東中・矢掛中・里庄中と対戦し全勝し、翌日の決勝トーナメントに進出した。翌日の決勝トーナメントでは、一回戦で玉島西と対戦し勝利、決勝戦で鴨方中と対戦し勝利し、本大会を優勝で終えることができた。

また、中学2年の富田直斗くんが、3

月28日から東京体育館等で行われる『第31回都道府県対抗ジュニアオールスター2018』の岡山県選抜選手に選出され、各練習会や大会で練習に励んでいる。

《高男子バスケットボール部》

1月13日に行われた平成29年度 第70回岡山県バスケットボール新人優勝大会に参加した。1回戦、玉野光南高校に93-58で敗れ、県ベスト24だった。

導の下、熱心に稽古している。

《バドミントン同好会》

2学期に新たな部員を迎え、高校2年生12名、高校1年生6名の総勢18名で、週1回の練習を楽しく続けています。多くの生徒が、ラリーが続くようになりました。楽しさだけでなく技術面の向上も図りたいと思います。

表紙の言葉

中1 三宅 彩乃

私は「ゆさゆさと 大枝ゆるる桜かな」という句を絵にしました。この絵の中で一番工夫した所は、桜の木です。この句には、「ゆさゆさと 大枝ゆるる」という風に桜の木がゆれているイメージをもったのでしなやかに木を彫りました。そうすることで木や花や葉すべてが絵の中で生きていて春の風にゆれているようになったと思います。

この絵で一番苦労した所は、桜の花を彫ることです。桜の花はいろいろな角度の姿が彫ってあります。特におしべの絵も入っている桜の花はとても細くて彫りにくく、絵の中でおしべをたくさん傷つけてしまいました。桜の花が10個あるうちの2個はおしべの部分彫ってかけがあるようにしました。まあすこし、めんどろだったのかもしれませんが、でも彫っていくのはとても楽しかったです。

この絵を見た人が、春の暖かい風を感じてもらえればなあと思います。

《中・高ダンス部》

ほつま祭を含む夏の各イベントに向けて、日々練習中です。

《かるた同好会》

週2回、宗教教室で競技かるたの練習を行った。人数が集まらないときには、札を用いた練習だけでなく、和歌を覚えることに力を入れた。

《歴史研究同好会》

各自、テーマを決め研究に取り組んだ。

《花道同好会》

毎週火曜日に宗教教室で兼信先生の指

学園だより

進路委員会

12月1～2日、高3では生徒の志望校について詳しく検討し、受験を控えてより良い指導ができるよう話し合った。4日に高1で、5日に高2でそれぞれに行い、現在の学力分析を基に今後の指導方針を検討した。

中学入学試験（適性検査型）

12月10日、163名が志願していた中学入試（適性検査型）が行われた。専願合格者は12月22日までに、併願合格者は2月9日までに手続きを完了した。

個別面談

中高の全クラスで、個別に2者あるいは3者で行った。中学校では、2学期を振り返り冬休みの過ごし方について、高1や高2では進路を見据えての教科選択について、高3では進路委員会の結果を基に受験大学について相談した。エンパワーメントプログラム 12月21日～24日、外国人6名を迎え、オールイングリッシュでの発信型授業を行った。

終業式

12月22日、2学期終業式が中合同で行われた。

中学入学試験（教科型）

1月4日、224

を考える機会を持った。

A F S 留学生 1月末でマブソン・オロルさんが1年の留学期間を終了した。学校の送別会は1月29日に行われ2月3日に帰国の途に就いた。

学校保健委員会

1月26日、校医、やつなみ保護者会、教職員、生徒会の代表で構成される学校保健委員会が開催され、本校の健康実態や保健委員会の活動報告等がなされた。岡山在宅介護センター晴の渡邊弥香氏に「がんの現状と小児がんについて」という講演をしていただいた。朝の寒心行実施 1月29日から2月3日にかけて、木綿崎ポランティア部を中心に寒心行を行った。講話された先生方（城戸勇人先生、有馬佳澄先生、土井康広先生、金光道晴校長）

高校入学試験

2月1日に推薦入試（専願）と一般入試（専願・併願）が同時に行われ、それぞれに1名、109名の中学生が志願した。推薦と一般入試は2月6日に、それぞれの保護者宛に選考の結果が通知され、専願合格者は9日までに手続きを終え、11日の招集日に入学までの諸連絡を聞いた。進捗調整のためのスターリングを、それ以後の日曜日と春休みに

名が志願していた中学入試（教科型）が行われた。7日に合格発表が行われた。専願合格者は1月17日までに、併願合格者は2月9日までに手続きを完了した。2月11日には、入学までの指導や制服の採寸のための招集があった。

始業式

1月6日、3学期始業式が中合同で行われた。校長式辞・高3生徒（高原健君）の決意表明・生活課よりの諸注意があった。また、フランスからの留学生マブソン・オロルさんが1年の留学を、オーストラリアからの留学生ターラ・ライオンズさんが1月半の留学を終了し、それぞれお別れの言葉を述べた。

街頭交通指導

毎月1日、10日、25日に教員が通学路に立ち、交通安全や通学マナーについての指導を行った。

センター試験

1月13・14日に実施された大学入試センター試験には、高3生徒188名が出願し、倉敷芸術科学大学、くらしき作陽大学、中国学園大学の3会場受験した。

イギリス短期語学研修・ニュージーランド現地校交流プログラム

第7回イギリス語学研修および初となるニュージーランド現地校交流プログラムに向けて昨

合わせて9日間受講した。併願合格者は、3月16日の招集日に手続きを完了し、それ以後に9日間のスターリングを受講した。

探究I課題研究中間発表会

2月5日、高1探究クラスの生徒が人文学、教育、物理、生物、化学の各ゼミに分かれて、これまで取り組んできた途中経過の報告を行った。

美術館見学

2月7日、中3は美術の授業の一環として、総合学習として、事前学習の後に倉敷美観地区の大原美術館・民芸館・自然史博物館などへ行き、古今東西の有名な美術品を鑑賞した。

学年集会

2月16日、中1は小体育館でクラスごとの出し物や学年全体での合唱を行い、1年間の集大成の場とした。中2は2月15日に浅口市市民会館金光で修学旅行事前学習発表を行い、学年の団結を誓うとともに今年度の総括の場とした。

高2芸術選択者発表会

2月17日、音楽選択者は練習の成果を浅口市市民会館金光での演奏会で発表し、14日から21日まで、美術・書道・工芸の選択者はそれぞれ作品を校内に展示し発表した。

卒業式

2月28日、第70回高校卒業式が1部は厳かに、2部は和やかに行われ、

年12月から3月10日にかけて校内でオリエンテーション、事前学習発表会、昼休みや放課後を利用しての英会話の練習を行った。

中3探究プレゼン学年発表会

助言者に岡山大学の森也志先生を迎え、探究授業で研究した原子力発電について、各クラスの代表がプレゼンテーションを行った。中学生徒会長選挙 1月18日に行われた来年度の中学生会長選挙の結果、会長には2年の福武莉奈さんが、副会長には1年の蔵田鳴洋君と1年の西俊一君が選ばれた。

進路委員会

1月20日、高3ではセンター試験の自己採点の結果を基に、2次試験に向けての出願を検討した。その後、個人面談を実施し生徒は出願した。

進路学習

1月30日、中1はNHK岡山支局アナウンサー塩田慎二氏の講演を聞き、職業についての関心を深めた。2月23日、中2は14分野にわたる様々な職業の方からグループ毎にお話を聞き、働くことの意味・楽しさ・苦労などを学び、これからの進路を考えることに役立った。2月2日、中3は高校入学後の心構えや教科選択の説明を聞き、それを元に進路

222名の生徒が学園を巣立った。
◇教主金光様のおことは
本日はおめでとございます。ただいま代表の方がお願いされましたように、これからも学園生活で培われたものを大切に、皆さんそれぞれの進路に向かって、世話になる全てに礼をいう心をもって進んでいかれますようお願い申し上げます。



教育相談保護者会

3月4日、3名の保護者が参加し、安原こずえ先生を講師に交流会が行われた。

防災訓練

3月12日、「3・11東日本大震災を忘れない」ために、昨年に続き防災訓練を実施した。地震を想定しての防災で、中学・高校別々に避難した。全体集合の後、黙祷を捧げ、校長の話伺った。

お祝い

松嶋有美先生には2月1日に長女のご誕生、お慶び申し上げます。

お悔やみ

平賀康先生の御尊父には1月9日に、脇本知子先生の御尊父には2月17日に逝去、謹んでお悔やみ申し上げます。

教室の窓から

「教年に一度の寒波」が日本列島を襲い、大雪・低温・さらにインフルエンザ警報と、この冬は油断ならない日々が続いた。

そして、今年も学園の最上級生は、めいめいの夢に向かって懸命の毎日を送っている。

昨年東京大学が推薦入試を導入して、国公立大学では定員の3割以上を推薦などの形で入学させる流れが急速に強まった。学園でも、生徒の希望に応じて、早くから推薦やAO入試対策に取り組んでいたのも、その対応にあわてたことはない。ただし、一般入試に比べて、取り組みやエネルギーの掛け方がずいぶん異なるので、生徒自身にはそれなりの覚悟と気力が求められる。幸い、学園には探究学習やSS日などで培ってきたノウハウが蓄積されていて、様々なコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身に付ける土台が備わってきた。また、長期休業と3学期には演習教室を自習室にして自習用の机を備えて黙々と学習を進めてきた。(写真)生徒個々が学習しているにもかかわらず、



自習室ではともに頑張ろうという連帯感が生まれ、良い刺激になっている。自習室での学習での最大のメリットは、質問ができたら直ちに教員室に行って対応してもらえらることだった。

そうした中で、個々の生徒が各自の課題に向き合いながら気づかされたことがある。それは、毎日のやり取りの中で、いま夢に向かって取り組んでいる姿や変化していく考え方や、その中にこそその生徒の成長の過程が浮き彫りにされ、「過程を大切にすること」のありがたさを実感できたのだ。練習に励んだ生徒が受験後に報告に来る。「プレゼンも面接も練習したことが言えました」「やり切ったから結果はどうなってもいいです」結果は良いに越したことはない。ただ、その生徒自身にとって、納得できるまでやり抜いた自信を身に付けて、卒業してもらえたら、きつと将来の糧になるに違いない。

生徒の中には、学園の正面玄関前の5代校長の石碑の和歌を見て「一分の一」を探究した人や、天地書付の「おかげは和賀心にあり」を題材に書道作品を書き上げた人もいた。学園生活の中で、折に触れ伝えてきた言葉を、自身の触角でキャッチして深めているようだ。学園の建学の精神をことさら喧伝しなくても、生徒の方から自ら受け継いできている。きつと将来、世のどこかで学園の教育の精神をさらに伝えて広めてくれることだろう。学園の子の成長を楽しみにしていた。

編集後記

毎年、やつなみ3月号の冒頭には卒業特集が組まれる。その中から高3学年団の「贈る言葉」を推したい。

今年も学年主任を筆頭に総勢12名の教員が銘々の思いを語っている。教科に関連した内容があれば、逆にまったく関わりもないものもある。いかにもこの先生らしい、と笑みが零れる文章があるかと思えば、あの先生はこんなことを考えていたのか、と目を見張ってしまうものもある。

これら12編は今年の卒業生に向けて書かれた、いわば最後の授業に当たるものだ。しかし、在校生にも、保護者の皆様にも、ぜひともお読みいただきたい。少なくとも、どれか1つは、いやもしかししたら2つか3つ、場合によっては12編すべてが心の琴線に触れるだろうから。

平成30年3月8日印刷

3月15日発行

編集者

金光学園やつなみ保護者会

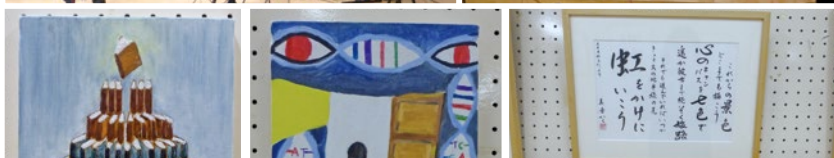
印刷所

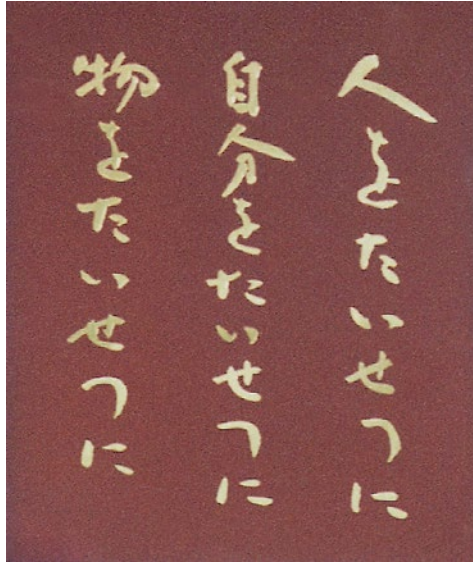
倉敷市船穂町船穂二〇九五―一 玉島活版所

発行所

浅口市金光町占見新田一三五〇 金光学園内
金光学園やつなみ保護者会

高2 芸術選択者発表会





◎ほつま = 秀真

非常に優れ整い備わっていることの意。

「日本という国」の古異名の一つ。

創立後、生徒会や冊子の名に使用。

ほつま体育館、ほつま祭などで使われる。

.....
◎やつなみ = 八波

どこまでもひろがり栄えゆく願いをこめる。

金光教・学園・中学・高校の徽章のふちどり。

P T A機関誌創刊当時、会員から公募してつけた。

人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに

<http://www.konkougakuen.net>

E-mail info@konkougakuen.net